

(様式第 10)

本病経公発第 5 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人 日本大
開設者名 理事長 田中英

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目 8 番 2 4 号（日本大学本部）
氏 名	学校法人 日本大学 理事長 田中英壽

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 3 0 番 1 号	電話 (03) 3972-8111
------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
<input checked="" type="checkbox"/> 1 呼吸器内科		
2 消化器内科		
<input checked="" type="checkbox"/> 3 循環器内科		
4 腎臓内科		
5 神経内科		
<input checked="" type="checkbox"/> 6 血液内科		
7 内分泌内科		
8 代謝内科		
9 感染症内科		
10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
<input checked="" type="checkbox"/> 11 リウマチ科		
診療実績		

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		<input checked="" type="checkbox"/>	有	・	無
外科と組み合わせた診療科名					
<input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科	<input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科		
5血管外科	<input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科	7内分泌外科	<input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科		
診療実績					

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科	<input checked="" type="checkbox"/> 2小児科	<input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科	<input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科	<input checked="" type="checkbox"/> 7産婦人科
8産科	9婦人科	<input checked="" type="checkbox"/> 10眼科	<input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科	12放射線科	<input checked="" type="checkbox"/> 13放射線診断科	
<input checked="" type="checkbox"/> 14放射線治療科	<input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科	<input checked="" type="checkbox"/> 16救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		<input checked="" type="checkbox"/>	有	・	無
歯科と組み合わせた診療科名					
1小児歯科	2矯正歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科			
診療体制					
歯科口腔外科として届出を行い、医療を提供している。					

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腎臓・高血圧内科	2糖尿病・代謝内科	3消化器・肝臓内科	4腫瘍内科	5脳神経内科	
6心療内科	7新生児内科	8乳腺内分泌外科	9形成外科	10リハビリテーション科	
11頭頸部外科	12疼痛緩和外科	13臨床検査科	14病理診断科	15	
16	17	18	19	20	
21					

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	一床	12床	一床	970床	1,025床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	442人	47.1人	489.1人	看護補助者	9人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	6.2人	15.2人	理学療法士	21人	臨床検査技師	84人
薬剤師	77人	0.6人	77.6人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	80人	0人	80人	視能訓練士	10人	その他	0人
助産師	60人	0人	60人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	935人	0.7人	935.7人	臨床工学士	31人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	1人	0人	1人	栄養士	2人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	6人	0人	6人	歯科技工士	1人	事務職員	71人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	70人	その他の職員	11人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	58人	眼科専門医	12人
外科専門医	42人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	35人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	14人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	19人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	8人
		合計	279人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（高橋悟） 任命年月日 令和3年4月1日

副病院長（病院パフォーマンス担当）	：令和 2年11月 1日～令和 3年 3月31日
副病院長（診療・教育担当）	：平成26年11月 1日～平成31年 3月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	628.4人	2.5人	630.9人
1日当たり平均外来患者数	1,707.2人	45.6人	1752.8人
1日当たり平均調剤数	外来 46剤 入院 1,163剤		
必要医師数	163.9人		
必要歯科医師数	3.3人		
必要薬剤師数	22人		
必要(准)看護師数	374人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	833.233㎡		病床数	45床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 84.11㎡ [移動式の場合] 台数 15台		病床数	5床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.22㎡ [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析機 LABOSPECT008α, H7180, 迅速マルチ自動分析 DimensionEXL2000		
細菌検査室	107.44㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動細菌同定感受性装置 ライサスS4, 自動血液培養装置 BACTEC-FX, BDマックス(リアルタイムRT-PCR), サーマフィッシュャーQ55DX		
病理検査室	135.48㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, バーチャルスライド機, 安全キャビネット, 顕微鏡		
病理解剖室	82.73㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台3台, (L型昇降式1第台), 局所排気システム, 写真撮影装置		
研究室	27.28㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ		
講義室	194.27㎡	鉄筋コンクリート造	室数	4室	収容定員	125人
図書室	1,015.10㎡	鉄筋コンクリート造	室数	1室	蔵書数	約200,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	87.7%	逆紹介率	59.9%
算出根拠	A：紹介患者の数	23,656人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,523人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,474人		
	D：初診の患者の数	30,922人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）（令和3年4月1日時点）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上篠由美	昭和大学江東豊洲病院副院長・大学院保健医療学研究科教授・医師	○	大学病院副院長として医療安全に関する豊富な実務経験と識見を持ち合わせているため	有・無	1
各務武希	光和総合法律事務所・弁護士		法曹界での豊富な実績を有しており、法律に関する専門知識とコンプライアンス分野の識見を持ち合わせているため	有・無	1
柴田誠治	板橋区名士医療を受ける者代表		医療を受ける者としての客観性と社会性を持ち合わせているため	有・無	2
西成田進	元日本大学医学部附属板橋病院医療安全管理室兼任医師		総合病院病院長の経験と本病院医療安全管理室兼任医師の業務経験を持ち合わせているため	有・無	1
庄司義男	元関東信越厚生局医療課長		豊富な業務経験を踏まえた医療に係る安全管理に関する識見を持ち合わせているため	有・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 当病院のホームページ上に公表している。 (https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/outline/disclosure)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡補助下の胸郭変形に対する手術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 漏斗胸や鳩胸などの胸郭変形に対する低侵襲治療として、内視鏡補助下に金属バーを挿入し形態を矯正する手術を行っている。			
医療技術名	胸腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 副腎良性腫瘍(原発性アルドステロン症, クッシング症候群, 褐色細胞腫), 副腎悪性腫瘍に対する低侵襲な術式である。胸腔鏡下に副腎中心静脈を処理し, 腫瘍の取り残しがないよう摘除する必要がある。			
医療技術名	胸腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍(主にT1b以上)に対する低侵襲な術式である。胸腔鏡下に腎動静脈および尿管を処理し腎周囲脂肪をしっかり付けて根治的に腎を摘除する必要がある。			
医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍(主にT1a)に対する低侵襲な術式である。胸腔鏡下に腎動脈(または腎動静脈)をクランプし, 腫瘍を切除後, 腎を縫合する必要がある。クランプ時間が限られており, 高度の縫合技術を要する。			
医療技術名	胸腔鏡下腎尿管全摘除術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 腎盂癌および尿管癌に対する低侵襲な術式である。胸腔鏡下に腎動静脈を処理し, 腎と尿管を骨盤内付近まで遊離する必要がある。			
医療技術名	胸腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対する低侵襲な術式である。胸腔鏡下で狭窄部位を切除し, 尿管ステントを留置しながら, 腎盂尿管を縫合する必要がある。			
医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下前立腺全摘除術	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要 前立腺癌に対する低侵襲な術式である。剥離・縫合操作が多く, 高度の技術を要する。			
医療技術名	胸腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する低侵襲な術式である。剥離操作や組織とメッシュの縫合操作が多く, 高度の技術を要する。			
医療技術名	角膜移植術	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 角膜混濁や水疱性角膜症などに対する全層角膜移植術, 角膜内皮移植術, 深層層状角膜移植術など。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 植込み型補助人工心臓(非拍動流型)は, 心臓移植適応の重症心不全患者で, 薬物療法や体外式補助人工心臓等の他の補助循環法によっても継続した代償不全に陥っており, かつ, 心臓移植以外には救命が困難と考えられる症例に対し, 心臓移植までの循環改善を目的として行われている。			
医療技術名	血管再生療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 皮下脂肪細胞から取り出した脱分極細胞を培養し, 高濃度の脱分極細胞を虚血肢に筋注する。			

医療技術名	体幹部定位照射	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 肺腫瘍、肝細胞癌に対して小型腫瘍へ行うピンポイントの根治的放射線治療。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	107人
当該医療技術の概要 前立腺癌や子宮頸癌などにおいて局所制御の向上と有害事象軽減目的のための放射線治療。			
医療技術名	高線量率密封小線源療法	取扱患者数	24名
当該医療技術の概要 子宮頸癌を主体に行う放射線治療。			
医療技術名	全身照射	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植においてレシピエントが造血幹細胞を拒絶しないように十分な免疫抑制をかける放射線による前処置。			
医療技術名	低線量率密封小線源治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対して1251(ヨード)線源を腰椎麻酔下に会陰から永久的に前立腺内に埋め込む治療。			
医療技術名	血管系画像下治療(IVR)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 X線透視装置と血管造影剤を使用しながら、カテーテルや針を用いて病変に到達し、診断や治療を行う手技。			
医療技術名	CT/超音波ガイド下生検	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 CT/超音波装置で身体の断面像を見ながら、病変部に針を刺して組織を採取する手技。			
医療技術名	CTガイド下ドレナージ	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 CT装置で身体の断面像を見ながら病変部に針を刺し、ガイドワイヤー誘導下にドレインを留置する手技。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術室において全身麻酔下で筋弛緩を確保した状態で電気けいれん療法を行う。難治性うつ病および統合失調症が対象。			
医療技術名	脳炎患者に対する抗神経抗体の迅速スクリーニング診断	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 同意を得た脳炎患者に対して、ラット脳免疫染色を用いて髄液中の抗神経抗体の有無を網羅的かつ迅速に検出する体制を国内で初めて確立し実施している。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡子宮全摘術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 ロボット(Davinci)を用いて子宮体癌 I A期の症例の子宮摘出を行う。			
医療技術名	広汎性子宮頸部切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 子宮頸がんは生殖可能年齢の若い女性に発症し、治療により妊孕性を失うが本手術は子宮頸部とその周辺組織を切除し、子宮体部・卵巣を温存することで妊孕性の温存が可能となり、これにより多くの若年の子宮頸がん患者が術後に生児を得ている。			
医療技術名	がん罹患者さんのBAP1 遺伝子の遺伝学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 がんゲノム医療における遺伝子プロファイリング検査でがん組織でBAP1 遺伝子変異が検出されたが、これが遺伝するものなのかを確認するために血液でBAP1 遺伝子の遺伝学的検査を実施した。			

医療技術名	低フォスファターゼ症	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 低フォスファターゼ症 (TNSALP遺伝子) の遺伝学的検査。			
医療技術名	多発性がんの患者さんに対するTP53遺伝子の遺伝学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 TP53 遺伝子の遺伝学的検査の実施。			
医療技術名	BRCA1/BRCA2遺伝子の遺伝学的検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 遺伝性乳癌卵巣癌症候群疑いの患者さんに関する遺伝学的検査の実施。			
医療技術名	家族性地中海熱の遺伝学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 数か月ごとに発熱を呈する家族性地中海熱(原因遺伝子はMEFV)の遺伝学的検査。			
医療技術名	縦隔腫瘍摘出術(ロボット支援)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に縦隔腫瘍を摘出する手術。			
医療技術名	がん遺伝子プロファイリング検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 固形がんを解析対象とした腫瘍組織の包括的ながんゲノムプロファイルを取得することで、患者さんのがん固有の遺伝子変異を解析し、正確な診断や抗がん剤の選定など治療方針決定に有用な情報を提供する検査である。			
医療技術名	超早産児の赤血球の生化学的特徴の解明と遷延性重症黄疸感受性遺伝子の同定	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 赤血球特殊検査、網羅的遺伝子解析技術を用いて、超早産児の赤血球の特徴や遺伝学的背景の違いを明らかにし、遷延性重症黄疸の発症予測マーカーを開発するものである。			
医療技術名	先天性溶血性貧血の予後予測と早期医療介入を可能とする新規検査法の確立	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 生後2ヶ月以降も慢性溶血を認める症例に赤血球膜、赤血球酵素、ヘモグロビン異常の有無でスクリーニングし、最終的に先天性溶血性貧血関連遺伝子(63遺伝子)の解析を行うものである。			
医療技術名	新生児仮死に対する低体温療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 重症新生児仮死に対し、水の還流するマットにより低体温にする療法で、生後6時間以内に開始し、72時間施行する。			
医療技術名	先天性サイトメガロウイルス感染症に対する抗ウイルス薬治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 頭蓋内病変、網膜脈絡膜炎、難聴など症候性の先天性サイトメガロウイルス感染症に対して6か月間バルガンシクロビルを内服する治療。			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症の児に対し、人工呼吸管理のもと高濃度酸素と一酸化窒素を用いて換気することで肺血管抵抗を下げる治療。			
医療技術名	耳管ピン手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 耳管開放症患者へ上記手術を施行し症状改善を図る。			
医療技術名	喉頭形成術	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 喉頭形成術により反回神経麻痺の嗄声改善、声質の改善を図る。			

医療技術名	デュピクセント治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 特定疾病である好酸球性副鼻腔炎を抗体医薬であるデュピクセントを投与することで改善させる画期的な保存的治療。			
医療技術名	HLA半合致造血幹細胞移植	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 急性白血病患者に対してHLA半合致の提供者から造血幹細胞移植を行った。移植後はシクロファスファミドで免疫抑制を行った。			
医療技術名	間葉系幹細胞を用いたGVH病の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植後の重症急性GVH病患者に間葉系幹細胞テムセルを投与して治療した。			
医療技術名	重症間質性肺病変合併皮膚筋炎に対するPMX-DHP療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬でコントロール不十分の重症間質性肺炎合併皮膚筋炎患者に対しpolymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion (OMX-DHP)療法を行い救命した。			
医療技術名	3T CMR imagingを用いたANCA関連血管炎の潜在性心臓病変の評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ANCA関連血管炎の心臓病変は無症候に進行し、顕性化すると重症化する可能性がある。3Tを用いたcardiac magnetic resonance imagingを用いて、形態学的、機能的病態を把握し治療に結びつけることにより心臓合併症の重症化を予防する。			
医療技術名	術中神経モニタリング支援下、脳腫瘍摘出術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 脳の機能を温存しつつ摘出率を上げるために、術中神経モニタリングを行いながら最大限の腫瘍摘出を行う。			
医療技術名	5-Amino Levulinic Acid (5-ALA) による術中蛍光診断支援下、摘出術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫の摘出率を上げるために、腫瘍細胞に取り込まれる5-ALAを内服した状態で手術を行い、術中に蛍光法で腫瘍の位置を同定し、腫瘍を摘出する。			
医療技術名	MRIを基にした術中画像ナビゲーションシステム	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要 術中に、病変の解剖学的位置を同定することで、合併症を軽減しつつ、病変へのアプローチを容易にする。また最大限の腫瘍摘出を目指す目的で行う。必要な症例ではDTI(神経線維の可視化)を併用して安全な手術を目指す。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 術中に覚醒させ、言語機能を評価しながら腫瘍を摘出することで、特に、言語機能を温存しつつ腫瘍の最大限の摘出を目指すために行う。			
医療技術名	MRIガイド下腫瘍生検術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腫瘍が、基底核、視床、視床下部、脳幹などの重要構造物を有する深部に存在し、生検術を要する場合、定位脳手術の手法で合併症を最小限にして、腫瘍の摘出を目指す。			
医療技術名	carmustine脳内留置用剤	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫に対して、可及的に腫瘍を摘出した後に、摘出空にCarmustine(ACNU)を留置することで、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善を目指す。			
医療技術名	bevacizumab(アバスチン)の静脈内投与	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 bevacizumabは血管内皮細胞増殖因子vascular endothelial growth factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体で、VEGFの働きを阻害することにより、血管新生を抑えたり腫瘍の増殖や転移を抑えたりする作用を持つ分子標的治療薬である。悪性神経膠腫の再発例に対して、外来にてbevacizumabによる化学療法を行い、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善を目指す。			
医療技術名	交流電場腫瘍治療システムであるNovoTTF-100Aシステム	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 初発の悪性神経膠腫に対して、腫瘍治療電場Tumor Treating Fields (TTF) と呼ばれる低強度・中間周波数の交流電場を発生させる携帯可能な装置で交流電場が有糸分裂中期の核分裂停止を誘発し、がん細胞を死滅させることで予後の改善を目指す。			

医療技術名	小児もやもや病に対する血行再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児もやもや病に対する直接血行再建術および間接血行再建術を行い、脳梗塞および脳出血の予防を目指す。			
医療技術名	水頭症に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、第三脳室底開窓術、透明中隔開窓術をはじめ、シャント術に依存しない治療を目指す。			
医療技術名	脳出血、脳室内出血に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、脳出血、脳室内出血を低侵襲にて摘出することで機能予後の改善を目指す。			
医療技術名	脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、脳室内腫瘍を低侵襲にて摘出することで合併症を最小限にしつつ、腫瘍の摘出、および病理診断の確定をめざした治療をおこなう。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対する静脈血栓溶解(rt-PA)療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 急性期脳梗塞に対して、発症からの時間及び画像所見などから適応を判断し、投与を行う。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対する経皮的血栓回収療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対して、再開通を目的とし24時間体制で施行している。			
医療技術名	脳血管内手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤、頭蓋内外血管狭窄症、硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形、急性虚血性脳卒中などの脳血管疾患に対して主に行なっている。他にも脳腫瘍や慢性硬膜下血腫などの脳血管塞栓術も行う。			
医療技術名	パーキンソン病に対する脳深部刺激療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 パーキンソン病に対する運動症状改善のため定位脳手術の手法により脳深部刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行う。			
医療技術名	不随意運動に対する脳深部刺激療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 本態性振戦などの不随意運動の改善のため定位脳手術の手法により脳深部刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行う。			
医療技術名	難治性疼痛に対する脊髄刺激療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳卒中後疼痛等の鎮痛薬が無効な難治性疼痛に対して、脊髄硬膜外刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行い除痛効果を得る。			
医療技術名	新生児に対する水頭症に対する管理	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 新生児科医師と密に連携を取り、診断・手術治療(PIカテーテル留置・貯留槽留置・シャント手術)ならびに術後全身管理をおこなう。			
医療技術名	脊髄髄膜瘤に対する修復術及び機能予後の改善を目指した集約的な加療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脊髄髄膜瘤修復術・水頭症に対する手術・管理をおこなうと同時に、関係各科と連携して膀胱直腸障害や運動機能障害、学習障害などの心理発達面での問題に対応していく。			
医療技術名	髄膜腫に対する腫瘍栄養血管塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 開頭腫瘍摘出術の際に術中出血コントロールが難渋すると考えられる症例に対し、術前に腫瘍栄養血管をカテーテルを用いた脳血管内治療により塞栓する。			

医療技術名	ボトックス注射	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙性斜頸、上肢・下肢痙縮等に対して、ボツリヌス毒素の筋肉内注射を行い、症状を改善させる。筋電図計を用いて施注部位を確実に同定して行う。			
医療技術名	破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 破裂脳動脈瘤に対して急性期に再破裂予防目的に脳動脈瘤クリッピング術を施行する。クリッピング術またはコイル塞栓術の決定に関しては動脈瘤の部位、個々の症例の状態などに合わせて症例検討を行っている。			
医療技術名	破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤コイル塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 破裂脳動脈瘤に対して急性期に再破裂予防目的にコイル塞栓術を施行する。コイル塞栓術またはクリッピング術の決定に関しては動脈瘤の部位、個々の症例の状態などに合わせて症例検討を行っている。			
医療技術名	未破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 未破裂脳動脈瘤については年齢、リスク因子から脳動脈瘤の破裂率を考え治療を行う。脳動脈瘤の部位や形状、大きさから術前に症例検討を行い治療方針を決定する。未破裂脳動脈瘤に対しての脳動脈瘤クリッピング術は合併症を起こさないことが重要であり、インドシアニングリーンや超音波ドップラーで周囲の血管の確認を行う。また運動機能の合併症が懸念されるような症例については神経モニタリングを行いながら、クリッピングを行う。			
医療技術名	未破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤コイル塞栓術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 未破裂脳動脈瘤については年齢、リスク因子から脳動脈瘤の破裂率を考え治療を行う。脳動脈瘤の部位や形状、大きさから術前に症例検討を行い治療方針を決定する。未破裂脳動脈瘤に対してのコイル塞栓術は合併症を起こさないことが重要であり、特に脳動脈瘤の母血管または周囲の穿通枝予防のため症例によりステントアシストなどを用いて行う。			
医療技術名	中枢神経原発悪性リンパ腫(PCNSL)に対するRMPV(リツキシマブ、メトトレキサート、プロカルバジン、ビンクリスチン)療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 中枢神経原発悪性リンパ腫に対して生検術にて診断が付き次第、すみやかに化学療法RMPV(リツキシマブ、メトトレキサート、プロカルバジン、ビンクリスチン)療法を行っている。			
医療技術名	小児悪性腫瘍に対する包括的な治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 小児脳腫瘍に対しては、安全かつ最大限の腫瘍摘出を目標とした手術を目指す。さらに術後も年齢・腫瘍局在・病理組織診断に応じて、脳神経外科、小児科(血液腫瘍科)、放射線治療科で協議をおこない個々の症例に対して手術・化学療法・放射線治療を組み合わせ合わせたオーダーメイド治療をおこなっている。また小児脳腫瘍多職種診療チームカンファレンスを開催することで、情報を共有するとともに、妊孕性を含む長期フォローアップを行っている。			
医療技術名	下垂体腫瘍に対する神経内視鏡を用いた経鼻的な手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を使用し、鼻腔を経由して開頭することなく下垂体腫瘍を摘出する。これにより低侵襲かつ安全な手術を行うことが可能になった。同部位は脳表から最も遠い部位の一つであり、従来の開頭手術では十分な腫瘍の摘出が困難であったが、本手技により全摘出を含む高い腫瘍摘出率を得られるようになった。また、本手技は下垂体腫瘍のみならず、前頭蓋底や斜部部の腫瘍も摘出することができる。			
医療技術名	重症頭部外傷に対する集約的加療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 救急救命センターと協力し積極的に治療を行うとともに、脳保護に努めて取り組んでいる。			
医療技術名	小児脊髄脂肪腫に対する加療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 術中神経モニタリングを併用して神経機能温存も考慮した、脊髄脂肪腫切除ならびに脊髄繫留解除手術を行っている。			
医療技術名	脳卒中後のリハビリテーション	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 脳卒中発症後に、再発予防を行いつつ、社会復帰に向けた早期リハビリテーションを行っている。			
医療技術名	JCOG1016 初発退形成性神経膠腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 初発退形成性神経膠腫に対する術後塩酸ニモスチン(ACNU)化学放射線療法先行再発時テモゾロミド化学療法をテモゾロミド化学放射線療法と比較するランダム化第Ⅲ相試験。			
医療技術名	JCOG1303 星細胞腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 手術後残存腫瘍のあるWHO Grade II星細胞腫に対する放射線単独治療とテモゾロミド併用放射線療法を比較するランダム化第Ⅲ相試験。			

医療技術名	JCOG1308 再発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 再発膠芽腫に対する用量強化テモゾロミド＋ベバシズマブ逐次併用療法をベバシズマブ療法と比較する多施設共同ランダム化第III相試験。			
医療技術名	JCOG1703 初発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 初発膠芽腫に対する可及的摘出術＋カルムスチン脳内留置用剤留置＋テモゾロミド併用化学放射線療法と可及的摘出術＋テモゾロミド併用化学放射線療法のランダム化第III相試験。			
医療技術名	JCOG1910 高齢者初発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療に関するランダム化比較第III相試験。			
医療技術名	JCCG MB19 小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第II相試験。			
医療技術名	JCCG EPN1501 小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児上衣腫に対する術後腫瘍残存程度と組織型によるリスク分類を用いた集学的治療第II相試験。			
医療技術名	急性腎不全に対する持続血液ろ過透析(CHDF)	取扱患者数	245人
当該医療技術の概要 急性腎不全を呈し血圧低下を来すような全身状態不良の患者に対して血液濾過ならびに透析を1日6時間以上かけて緩徐に行う。			
医療技術名	腹水ろ過濃縮再静注法(CART)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 癌や肝硬変によって溜まった腹水から濾過器と濃縮器を用いて有用なタンパク成分(アルブミンなど)を取り出し、再び体内に点滴で戻す治療			
医療技術名	顆粒球除去療法(GCAP)	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎やクローン病といった自己免疫性腸疾患に対して、血液を体外循環させ、末梢血液中の炎症や免疫機能の悪循環に関与する顆粒球、単球を選択的に吸着、除去をする。			
医療技術名	血漿交換(PE)	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させていると考えられている物質を除去することで、病態を改善させる方法。自己免疫疾患や凝固因子が不足する肝不全、血液疾患に適応する。			
医療技術名	血漿吸着法(IAPP)	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 膜型血漿分離器を用いて血液から血漿を分離し、血漿中に存在する病因関連物質を吸着器にて除去して自己免疫疾患を改善させる。			
医療技術名	乾癬患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	114人
当該医療技術の概要 乾癬では皮疹が広範囲に及んだり、範囲が限局的でも爪など特定部位に症状がある場合はQoLが著しく障害される。また、関節症状が出現し不可逆的な変化をもたらすこともある。そのような乾癬患者に対し、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	慢性蕁麻疹患者のオマリズマブ(抗IgE抗体)による治療	取扱患者数	69人
当該医療技術の概要 慢性蕁麻疹は掻痒感を伴う膨疹が繰り返し出現し、QoLが著しく障害される。抗ヒスタミン剤に代表される治療法に抵抗性の慢性蕁麻疹患者に対し、オマリズマブによる治療を行った。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍切除術	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、ボーエン病、日光角化症、乳房外paget病や、その他希少な皮膚悪性腫瘍に対し皮膚悪性腫瘍切除術を行った。			
医療技術名	QGE031	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 ヒスタミンH1受容体拮抗薬で十分なコントロールが得られない慢性特発性蕁麻疹(CSU)の青少年患者及び成人患者に投与したときのligelizumab(QGE031)の有効性及び安全性を検討する、多施設共同、ランダム化、二重盲検、実薬・プラセボ対照試験			

医療技術名	LOU064	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 ヒスタミンH1受容体拮抗薬で十分なコントロールが得られない慢性特発性蕁麻疹を有する成人患者を対象にLOU064の有効性、安全性、及び忍容性を検討する多施設共同、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第IIb相用量設定試験。			
医療技術名	AIN457	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 中等症から重症の化膿性汗腺炎を有する成人患者を対象に、2つの投与方法でセクキヌマブを皮下投与したときの短期(16週間)及び長期(最長1年間)の有効性、安全性、及び忍容性を検討する、ランダム化、二重盲検、多施設共同試験。			
医療技術名	UCB4940(Bimekizumab)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 中等度～重度の局面型皮疹を有する慢性尋常性乾癬の成人患者を対象としてBIMEKIZUMABの長期投与における、安全性、忍容性及び有効性を評価する多施設共同、非盲検試験 第III相試験。			
医療技術名	ABBV-066	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 中等度から重度の慢性局面型乾癬に対する維持投与におけるrisankizumabの安全性及び有効性を評価する多施設共同、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第III相試験。			
医療技術名	ABT-494	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 日本の中等症から重症の青少年及び成人アトピー性皮膚炎患者におけるステロイド外用薬併用下のウパダシチニブの安全性を評価する第III相無作為化多施設共同二重盲検試験。			
医療技術名	LY3074828	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者を対象に、mirikizumabの有効性及び安全性をセクキヌマブ及びプラセボと比較する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照試験。			
医療技術名	BMS-986165	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 中等度から重度の局面型局面型皮疹を有する乾癬患者を対象とした、BMS-986165の有効性及び安全性を検討する、多施設共同、プラセボ及び実薬対照、ランダム化二重盲検第III相試験。			
医療技術名	UCB4940(Bimekizumab)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 活動性乾癬性関節炎を有する患者を対象としてBIMEKIZUMABの有効性及び安全性を評価する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、実薬対照(アダリムマブ)、第III相試験。			
医療技術名	BI655130	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 中等度から重度の掌蹠膿疱症を対象としたSpesolimabの有効性及び安全性を評価する、多施設共同、無作為化、二重盲検、ランダム化第II相試験。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	6	56	アジソン病	1
2	脊髄性筋萎縮症	1	57	サルコイドーシス	25
3	進行性核上性麻痺	1	58	特発性間質性肺炎	11
4	パーキンソン病	201	59	肺動脈性肺高血圧症	4
5	シャルコー・マリー・トゥース病	3	60	慢性血栓性肺高血圧症	5
6	重症筋無力症	47	61	網膜色素変性症	15
7	多発性硬化症／視神経脊髄炎	34	62	特発性門脈圧亢進症	3
8	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	3	63	原発性胆汁性胆管炎	32
9	封入体筋炎	2	64	自己免疫性肝炎	15
10	多系統萎縮症	8	65	クローン病	17
11	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	14	66	潰瘍性大腸炎	91
12	ミトコンドリア病	5	67	好酸球性消化管疾患	1
13	もやもや病	7	68	全身型若年性特発性関節炎	5
14	特発性基底核石灰化症	2	69	筋ジストロフィー	6
15	全身性アミロイドーシス	2	70	脊髄空洞症	1
16	神経線維腫症	2	71	遺伝性ジストニア	2
17	天疱瘡	3	72	結節性硬化症	3
18	膿疱性乾癬(汎発型)	3	73	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
19	高安静脈炎	10	74	特発性後天性全身性無汗症	1
20	巨細胞性動脈炎	1	75	マルファン症候群	1
21	結節性多発動脈炎	4	76	ウィルソン病	1
22	顕微鏡的多発血管炎	18	77	無脾症候群	1
23	多発血管炎性肉芽腫症	5	78	ファロー四徴症	2
24	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	79	一次性ネフローゼ症候群	13
25	バージャー病	9	80	紫斑病性腎炎	4
26	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	81	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
27	全身性エリテマトーデス	150	82	オスラー病	1
28	皮膚筋炎／多発性筋炎	45	83	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
29	全身性強皮症	33	84	尿素サイクル異常症	1
30	混合性結合組織病	17	85	原発性高カイトロミクロン血症	1
31	シェーグレン症候群	87	86	家族性地中海熱	2
32	成人スチル病	6	87	強直性脊椎炎	5
33	再発性多発軟骨炎	1	88	後天性赤芽球癆	1
34	ベーチェット病	22	89	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
35	特発性拡張型心筋症	35	90	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
36	肥大型心筋症	5	91	胆道閉鎖症	4
37	再生不良性貧血	13	92	I g G 4 関連疾患	2
38	自己免疫性溶血性貧血	2	93	好酸球性副鼻腔炎	5
39	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	94	特発性多中心性キャスルマン病	1
40	特発性血小板減少性紫斑病	27	95		
41	原発性免疫不全症候群	3	96		
42	IgA 腎症	20	97		
43	多発性嚢胞腎	12	98		
44	黄色靱帯骨化症	5	99		
45	後縦靱帯骨化症	26	100		
46	広範脊柱管狭窄症	2	101		
47	特発性大腿骨頭壊死症	9	102		
48	下垂体性ADH分泌異常症	9	103		
49	下垂体性PRL分泌亢進症	3	104		
50	クッシング病	1	105		
51	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	6	106		
52	下垂体前葉機能低下症	12	107		
53	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	1	108		
54	先天性副腎皮質酵素欠損症	3	109		
55	先天性副腎低形成症	1	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料, 結核病棟7:1入院基本料, 精神病棟13:1入院基本料)	・データ提出加算 2
・入院時食事療養(Ⅰ)	・入退院支援加算 1・3(地域連携診療計画加算, 入院時支援加算, 総合機能評価加算)
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算 2	・精神疾患診療体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神科急性期医師配置加算 2のイ
・救急医療管理加算	・排尿自立支援加算
・超急性期脳卒中加算	・地域医療体制確保加算
・診療録管理体制加算 2	・救命救急入院料 4
・医師事務作業補助体制加算 1 50:1	・特定集中治療室管理料 3(早期離床・リハビリテーション加算, 早期栄養介入管理加算)
・急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助者5割以上)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・看護職員夜間配置加算 12:1配置加算 2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算 2(精神病棟)	・小児入院医療管理料 1
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算 1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算 1	・
・感染防止対策加算 1(感染防止対策地域連携加算, 抗菌薬適正使用支援加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算 1	・
・病棟薬剤業務実施加算 1・2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算	・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・歯科治療時医療管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
・外来栄養食事指導料(注2に規定する施設基準)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料 イ・ロ・ハ・ニ	・遺伝学的検査
・外来緩和ケア管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・小児運動器疾患指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・婦人科特定疾患治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・腎代替療法指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料(情報通信機器を用いた診療体制を有する)	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・外来排尿自立指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料 2	・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
・薬剤管理指導料	・神経学的検査
・医療機器安全管理料 1・2	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・コンタクトレンズ検査料 1
・精神科退院時共同指導料2	・小児食物アレルギー負荷検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・経気管支凍結生検法	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・画像診断管理加算2	・硬膜外自家血注入
・CT撮影及びMRI撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・冠動脈CT撮影加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・外傷全身CT加算	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・心臓MRI撮影加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・乳房MRI撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・外来化学療法加算1	・皮膚移植術(死体)
・連携充実加算	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・無菌製剤処理料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・頭蓋内腫瘍摘出術 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・がん患者リハビリテーション料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・リンパ浮腫複合的治療料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・集団コミュニケーション療法料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・角膜移植術(内皮移植加算)
・認知療法・認知行動療法1	・羊膜移植術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工中耳植込術, 人工内耳植込術, 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎部分切除術, 腹腔鏡下小切開腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術, 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・内視鏡下甲状腺部分切除, 腺腫摘出術, 内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉), 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・生体部分肝移植術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・生体腎移植術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜, 心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・膀胱水圧拡張術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの), 植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・補助人工心臓	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術, 腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・輸血管管理料 I
・経皮的下肢動脈形成術	・輸血適正使用加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・コーディネート体制充実加算	・
・自己生体組織接着剤作成術	・
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ	・
・歯科麻酔管理料	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算 2 (IMRT)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・病理診断管理加算 2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・口腔病理診断管理加算 2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口腔と胎盤マイクロバイオームによるジカ熱垂直感染機構の解明	早川 智	微生物学分野	2,340,000	補 委	文科省科研費
会議録を活用した希少がん診断支援情報システムの構築	中西 陽子	腫瘍病理学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
進行性前立腺がんにおける転写因子OCT1の治療抵抗性獲得機序の解明とその臨床応用	大日方 大亮	泌尿器科学分野	4,680,000	補 委	文科省科研費
アルコール脱水素酵素の臓器障害発症への関与	奥田 貴久	法医学分野	2,600,000	補 委	文科省科研費
生体内インスリン動態制御機構の新規in vivo肝・膵イメージング法による解明	金丸 和典	細胞分子薬理学部門	6,760,000	補 委	文科省科研費
膵β細胞活動を生体内で可視化する新規指標を用いた2型糖尿病治療戦略基盤の探索	飯野 正光	細胞分子薬理学部門	6,500,000	補 委	文科省科研費
変形性膝関節症に対する脱分化脂肪細胞関節内投与による細胞治療開発	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	6,370,000	補 委	文科省科研費
肝細胞癌の高精度放射線治療効果を高めるための放射線肝障害病態解明	岡田 真広	放射線医学分野	650,000	補 委	文科省科研費
ヒト不安定粥腫類似病変を持つミニプタを用いたステント留置後合併症メカニズムの検討	李 予昕	細胞再生・移植医学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
マルチサイトなラジカルキレート配位子の開発とフェリ磁性体の構築	岡澤 厚	化学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費

ALS発症前に軸索変性する運動ニューロンの特徴の解明	吉川 雅朗	生体構造医学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
新規ベンゾ(a)ピレンDNA付加体形成メカニズムの解明と遺伝毒性予防食品の探索	宇野 茂之	生化学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
造血微小環境におけるストローマ細胞の構成様式と造血支持機能	相沢 信	生体構造医学分野	910,000	補 委	文科省科研費
心理社会的ストレスによる喘息増悪の分子病態の解析	丸岡 秀一郎	呼吸器内科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
胎児期低栄養による腎障害および高血圧発症メカニズムの解明	高橋 昌里	小児科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
心房周囲脂肪における心房細動の進展の解明:肥満犬心房細動モデルを用いた検討	奥村 恭男	循環器内科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
COPDにおけるネクロプトーシスによるミトコンドリアDNA放出と気道炎症の解明	水村 賢司	呼吸器内科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
多発性嚢胞腎の疾患特異的iPS細胞由来腎集合管細胞の機能解析と治療薬の探索	及川 治	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
HCaRG/COMMD5は腎尿細管上皮バリアー機構を増強し急性腎障害を改善する	松田 裕之	医学研究企画・推進室	1,300,000	補 委	文科省科研費
免疫性腎炎に対する脱分化脂肪細胞療法の開発	丸山 高史	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
プラズマ照射液/NOxドナーによるメラノーマ治療の基礎研究	落合 豊子	皮膚科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
パーキンソン病患者の視床下核内神経活動の分布	小林 一太	神経外科学分野	26,000	補 委	文科省科研費
HPV分子を標的とした癌免疫療法剤のコンパニオン診断開発のための基礎的研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費

蝸牛・前庭症状を伴う線維筋痛症におけるエクソソームの作用機序の解明	野村 泰之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
創傷治癒過程に出現する脂肪細胞由来線維芽細胞の形質及び機能解析	風間 智彦	細胞再生・移植医学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
ユビキトーム解析による歯周疾患のバイオマーカー開発	土田 祥央	臨床検査医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
Dellによる遺伝子治療と抗体薬の併用療法の効果	北野 尚孝	歯科口腔外科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
労働者の休養が心身の健康に与える影響についての総合的疫学研究	井谷 修	公衆衛生学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
ウェアラブル端末を用いた日常生活動作における体幹・四肢運動機能評価とロコモ対策	中西 一義	整形外科学分野	780,000	補 委	文科省科研費
感性において個体差を生じる過程に關与する選択的な脳内抑制系の探索	松川 睦	生体構造医学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
ヒト化マウスを用いた難治性喘息動物モデルの構築と病態解析への応用	權 寧博	呼吸器内科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
糖尿病と糖尿病性腎症の進展を抑制するプロテインSを増加させるPIポリアミドの開発	常見 明子	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
抗酸菌の防御における細胞性免疫応答の解析と新規ワクチン開発	相澤 志保子	微生物学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
乳癌組織周囲における脂肪細胞の挙動の解明と新規治療法の開発	金田 英秀	小児外科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
集中治療後症候群における脳機能障害発生機序の解明－脳萎縮と神経学的転帰との相関－	木下 浩作	救急集中治療医学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法の治療利益の最大化に関する研究	深谷 親	神経外科学分野	780,000	補 委	文科省科研費

悪性神経膠腫における抗てんかん薬の抗腫瘍効果	吉野 篤緒	神経外科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
去勢抵抗性前立腺がんのアンドロゲン受容体転写協調因子を標的としたポリアリミド創薬	高橋 悟	泌尿器科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
腫瘍由来のエリスロポエチンが子宮筋腫を巨大に増大させる機序の解明と臨床的応用	佐藤 美紀子	産婦人科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞による耳管構造の改変－難治性中耳・耳管疾患の新治療戦略－	大島 猛史	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞(DFAT)を導入した人工真皮と自家培養表皮による皮膚再建法の確立	副島 一孝	形成外科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
顎口腔組織幹細胞を用いたオルガノイド試験管内再構築法確立のための革新的基礎研究	阿部 成宏	歯科口腔外科学分野	894,149	補 委	文科省科研費
インターネットやスマートフォンの適切使用に関する保健教育と介入効果に関する研究	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
マイクロ流路によるコアシェル型PBAナノ粒子の結晶成長制御とヘテロ接着界面の観測	糸井 充穂	物理学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
体液上方変位と高二酸化炭素血症が脳血流調節機能に与える複合影響の用量依存性	岩崎 賢一	衛生学分野	650,000	補 委	文科省科研費
不規則再生肝細胞に着目した新規肝癌バイオマーカーと創薬ターゲットの開発	山崎 元美	消化器肝臓内科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
自己免疫性脳炎の新規治療ターゲット同定を目指した神経細胞表面抗体の分子病態解明	原 誠	神経内科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
ポータブル睡眠脳波計を用いたうつ病個別化医療の実現に関する研究	鈴木 正泰	精神医学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費

PIポリアミドによる低酸素細胞に対する放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
膀胱内薬剤注入療法における網内系との関連の解明	前林 俊也	放射線医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
超早産児の赤血球の生化学的特徴の解明と遷延性重症黄疸感受性遺伝子の同定	森岡 一郎	小児科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
肝線維化進展機序解明を目的としたインテグリンβ1と細胞接着に関する研究	増崎 亮太	消化器肝臓内科学分野	2,340,000	補 委	文科省科研費
糖尿病性腎症進展におけるUSF1の関与とUSF1結合阻害PIポリアミドの創薬開発	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
炎症性皮膚疾患患者における末梢血リボソームの解析	藤田 英樹	皮膚科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
慢性特発性蕁麻疹の病態におけるマスト細胞と好塩基球の活性化機構の解明	岡山 吉道	医学教育センター	1,690,000	補 委	文科省科研費
Study on mechanisms of rubella virus infection to the fetus, possible alternative cellular receptors and factors affecting the virus infection	TRINH DUY QUANG	微生物学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
膵島ホルモン分泌細胞の代謝特性の解析と偽膵島作製による代謝・分泌障害機構の解明	石原 寿光	糖尿病代謝内科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
TGF-β1を標的とするポリアミドによる肝癌治療法の開発	高木 恵子	消化器外科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
HPV E7癌蛋白質を標的とした免疫療法のコンパニオン診断開発のための基礎的研究	小松 篤史	産婦人科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
子宮頸癌におけるWEE1阻害薬の検討およびその免疫環境の評価	池田 悠至	産婦人科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費

気道乳頭腫における予後予測因子の探索:診療の効率化を目指して	松崎 洋海	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	2,470,000	補 委	文科省科研費
味細胞内味覚受容Caシグナルの生体内イメージングと亜鉛欠乏による味覚障害機序解析	田中 真琴	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費
角膜神経のドライアイ疼痛症状に関与するメカニズム解明と治療応用	崎元 暢	眼科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
糖尿病網膜症の発症予防のためのワクチン治療の開発と新規糖尿病網膜症モデルの確立	横田 陽匡	眼科学分野	3,120,000	補 委	文科省科研費
マイクロサージャリーによる再建外科へのロボット支援手術の応用に関する検討	檜村 勉	形成外科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
救急医療の評価手法の研究ー重症頭部外傷の予後予測モデルの立案ー	前田 幸宏	医療管理学分野	780,000	補 委	文科省科研費
乳幼児のサポウイルス感染症の分子疫学と感染免疫	沖津 祥子	微生物学分野	2,080,000	補 委	文科省科研費
肥満2型糖尿病のインスリン分泌および作用障害におけるXORの役割の解明	藤城 緑	糖尿病代謝内科学分野	2,210,000	補 委	文科省科研費
医療過誤・インシデントの原因となる医療者の価値観を体系化する分析手法の確立	根東 義明	医療管理学分野	2,470,000	補 委	文科省科研費
不全心筋に対するセマフォリン3Aによる心筋再生療法	黒川 早矢香	循環器内科学分野	650,000	補 委	文科省科研費
睡眠障害に関するストレスコーピングの有効性の総合的検討	大塚 雄一郎	公衆衛生学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
CDK4/6阻害薬によるがん細胞の自食胞形成を伴う新規細胞死誘導の分子基盤の解明	日野 浩嗣	生体構造医学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費

女性小児がん経験者の妊孕性についての研究	平井 麻衣子	小児科学分野	130,000	補 委	文科省科研費
深層学習を用いた、頭部CT画像判定装置の開発	渡邊 充	神経外科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
子宮頸癌特異的ステムセルメモリーT細胞の同定と選択的増殖による新規免疫療法の開発	加藤 侑希	生体構造医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
冠動脈不安定粥腫プラタにおけるステント留置後の第Xa因子阻害抗凝固薬の効果の検討	北野 大輔	循環器内科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
血中一酸化炭素濃度とUGT1A1遺伝子変異を用いた早産児遷延性黄疸の増強予測	加藤 亮太	小児科学分野	2,210,000	補 委	文科省科研費
混合型小細胞肺癌の腫瘍進展機構の解明と新たな治療標的の探索	飯田 由子	呼吸器内科学分野	780,000	補 委	文科省科研費
マスト細胞由来エクソソームmiRNAによるIL-5産生増強機構の解明	豊島 翔太	医療教育センター→呼吸器内科学	1,300,000	補 委	文科省科研費
白金錯体結合PIポリアミドによる神経芽腫に対する新規治療薬剤の開発	植草 省太	小児外科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
神経芽腫における脱分化脂肪細胞由来exosomeを用いた分化誘導療法の新規開発	星 玲奈	小児外科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
妊婦における左側臥位および子宮左方偏位が下大静脈に与える影響	古谷 友則	麻酔科学分野	260,000	補 委	文科省科研費
鼻副鼻腔乳頭腫の腫瘍組織におけるIL-33およびST2発現の検討	永田 善之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	390,000	補 委	文科省科研費
SGAモデルマウスを用いた生活習慣病発症予測マーカーの開発	長野 伸彦	小児科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
場の理論にもとづく動的均衡にあるレザボワ計算神経回路の設計	早川 隆	物理学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費

インスリン分泌促進とβ細胞死の境界を決めるミトコンドリアCa ²⁺ 制御因子の探索	太向 勇	細胞分子薬理学部門 →生理学分野	2,340,000	補 委	文科省科研費
ホジキンリンパ腫における多重蛍光染色を用いた腫瘍微小環境の同定と予後に与える影響	高橋 宏通	臨床検査医学科分野	520,000	補 委	文科省科研費
血管内皮前駆細胞により生体外内皮化された薬剤溶出性ステントの開発	塚田 実郎	放射線医学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費
前立腺癌に対する新規放射線増感剤の開発	坂口 雅州	放射線医学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
シトシン欠損症における乳児期肝障害の病態解明と新規治療開発	市野井 那津子	小児科学分野	2,210,000	補 委	文科省科研費
心不全患者における超音波エラストグラフィ法による臓器うっ血評価法の確立	齋藤 佑記	循環器内科学分野	390,000	補 委	文科省科研費
先天代謝異常症に対する羊膜上皮細胞治療の開発	高野 智圭	微生物学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
神経芽腫の栄養飢餓耐性獲得と抗がん剤耐性獲得機序におけるTFAP2Eの役割の検討	長崎 瑛里	小児外科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
廃用性筋萎縮に対するα7アセチルコリン受容体刺激薬GTS-21の抑制効果の検討	岩崎 肇	麻酔科学分野	2,210,000	補 委	文科省科研費
低温プラズマによる悪性神経膠腫治療の基礎研究	落合 祐之	神経外科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
膠芽腫に対するアミノ酸代謝酵素を標的とした分化誘導療法の前臨床研究	山室 俊	神経外科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
リウマチ性関節炎におけるマスト細胞のmiR199aによるPGD2制御機序の解明	李 賢鎬	整形外科分野	780,000	補 委	文科省科研費
腔細菌叢による腔内恒常性維持機構の解明	高田 和秀	微生物学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費

VHL発現に着目した舌異形成から癌への分子機構の解明と新たな舌癌の治療法の開発	長谷川 央	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	2,080,000	補 委	文科省科研費
ウェアラブルデバイスを用いた医師のストレスや情動状態による医療事故への影響の研究	市川 理恵	医療管理学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
生活習慣病の高リスク小児同定のための内臓脂肪計とコレステロール質的マーカーの開発	阿部 百合子	医学教育センター	2,340,000	補 委	文科省科研費
カラー静止画像を用いた経皮ビリルビン測定システムの実用化に向けた臨床研究	香山 一憲	小児科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
羊膜上皮細胞由来エクソソームmiR483-5pによる肝星細胞活性制御機序の解明	三木 敏生	生理学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
強い空腹後の摂食時におけるマウス回腸FGF15の発現低下の分子メカニズムの解明	片渕 剛	生化学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
免疫チェックポイント分子を応用したミセル型ナノ粒子ポリマーワクチンの創出	塚本 昌子	血液膠原病内科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,600,000	補 委	厚生労働科研費
難病領域における検体検査の精度管理体制の整備に資する研究	中山 智祥	臨床検査医学分野	500,000	補 委	厚生労働科研費
「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究	鈴木 正泰	精神医学分野	500,000	補 委	厚生労働科研費

「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究	内山 真	精神医学分野	300,000	補 委	厚生労働 科研費
「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究	井谷 修	公衆衛生学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	亀井 聡	神経内科学分野	300,000	補 委	厚生労働 科研費
慢性の痛み患者への就労支援/仕事と治療の両立支援および労働生産性の向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	加藤 実	麻酔科学分野	300,000	補 委	厚生労働 科研費
急性弛緩性麻痺, 急性脳炎・脳症等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明, 治療法の確立に資する臨床疫学研究	原 誠	神経内科学分野	400,000	補 委	厚生労働 科研費
消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の小児から成人へのシームレスな診療体制構築のための研究	山本 敏樹	消化器肝臓内科学分野	100,000	補 委	厚生労働 科研費
新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	石毛 美夏	小児科学分野	700,000	補 委	厚生労働 科研費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	葉山 惟大	皮膚科学分野	950,000	補 委	厚生労働 科研費
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	越永 従道	小児外科学分野	300,000	補 委	厚生労働 科研費
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井 正	皮膚科学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費

慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費
肝炎ウイルスの新たな感染防止・残された課題・今後の対策	森岡 一郎	小児科学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	加藤 実	麻酔科学分野	200,000	補 委	厚生労働 科研費
スモンに関する調査研究	中嶋 秀人	神経内科学分野	1,000,000	○ 補 委	厚生労働 科研費
新型コロナウイルス感染症流行下における, 妊婦に対する適切な支援提供体制構築のための研究	早川 智	微生物学分野	3,000,000	○ 補 委	厚生労働 科研費
新型コロナウイルス感染症流行下における, 妊婦に対する適切な支援提供体制構築のための研究	森岡 一郎	小児科学分野	1,800,000	補 委	厚生労働 科研費
重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療の実用化	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	27,000,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するボナチニブを組み込んだ治療法の確立と分子基盤の解明	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	19,500,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
経口感染によるウイルス性肝炎(A型及びE型)の感染防止、病態解明、治療等に関する研究	神田 達郎	消化器肝臓内科学分野	21,600,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
機能的抗体誘導HIVワクチン開発に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,300,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	390,000	補 委	日本医療 研究開発 機構

気密環境下製造粘膜上皮シートの実用化	山上 聡	眼科学分野	15,080,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	川名 敬	産婦人科学分野	481,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
慢性骨髄性白血病患者における第二世代チロシinkinナーゼ阻害薬の中止後の無治療寛解の評価と最適化	入山 規良	血液膠原病内科学分野	520,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	小川 眞広	消化器肝臓内科学分野	500,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
洞不全症候群の臨床情報・遺伝学的解析に基づくリスク層別化アルゴリズムの開発	奥村 恭男	循環器内科学分野	130,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
新規培養技術を用いた、扁平腺接合部細胞における高悪性度HPV18型の潜伏持続感染および発癌機構の解明	池田 悠至	産婦人科学分野	2,600,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	羽尾 裕之	人体病理学分野	130,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
乳がん・大腸がん・膵がんに対する適切な薬剤投与を可能にする大規模データ基盤の構築	高橋 泰夫	臨床試験研究センター	3,900,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	浅井 聡	薬理学分野	2,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	吉野 篤緒	神経外科学分野	260,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構

粘膜免疫を基盤とした下痢症ウイルスに対する画期的医薬品開発の実用化に資する研究	牛島 廣治	微生物学分野	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	前林 俊也	放射線医学分野	507,000	補 委	日本医療研究開発機構
日本のトキソプラズマ症の感染実態把握とその制御に向けた協創的研究開発的対策に向けた開発研究	森岡 一朗	小児科学分野	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
タイ王国における下痢症ウイルスに関する研究	牛島 廣治	微生物学分野	4,290,000	補 委	日本医療研究開発機構
タイ王国における下痢症ウイルスに関する研究	牛島 廣治	微生物学分野	3,770,000	補 委	日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	中山 智祥	臨床検査医学分野	2,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
				補 委	

計146件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takubo M, Tanaka S, Kushimoto M, et al	糖尿病・代謝内科	Hyponatremia associated with prophylactic low-dose trimethoprim during systemic corticosteroid therapy for AQP4-positive optic neuritis in a diabetic patient.	Antibiotics (Basel). 9, 201.	Case report
2	Egashira F, Kawashima M, Morikawa A, et al	糖尿病・代謝内科	A rare case of fulminant type 1 diabetes mellitus accompanied and myocarditis	BMC Endocrine Disorders. 20, 127.	Case report
3	M. Yamamoto, T. Suzuki	麻酔科	Neuromuscular blockade at the orbicularis oculi muscle in a patient with myasthenia gravis	Journal of Clinical Monitoring and Computing 2020;34:1385-1386	Original Article
4	Osamu Kitajima, Mai Yamamoto, Takagi shinichi, et al	麻酔科	Potency estimation of sugammadex for the reversal of moderate rocuronium-induced neuromuscular block: a non-randomized dose-response study	Journal of Anesthesia 2020;34:348-351	Original Article
5	Hajime Iwasaki, Atsushi Kurosawa, Takafumi Iida, et al	麻酔科	Use of intraoperative neuromuscular monitor reduces the reversal dose of sugammadex: a single-center retrospective study	Journal of Anesthesia 2020;34:276-280	Original Article
6	Shunichi Takagi, Osamu Kitajima, Mai Yamamoto, et al	麻酔科	Potential by sevoflurane of rocuronium-induced neuromuscular block is greater in older than younger adult patients: a randomised controlled trial	BRITISH JOURNAL OF ANAESTHESIA 2020;125:e351-353	Original Article

7	Shunichi Takagi, Nami Sugaya, Naoto Kiuchi, et al	麻醉科	High-dose rocuronium-induced paralysis of the adductor pollicis muscle facilitates detection of timing for tracheal intubation in elderly patients: a randomized double-blind study	Journal of Anesthesia 2020;34:876-880	Original Article
8	Ichie Kajiwara, Makoto Sano, Yoshimi Ichimaru, et al	麻醉科	Duloxetine improves cancer-associated pain in a mouse model of pancreatic cancer through stimulation of noradrenaline pathway and its antitumor	PAIN 2020;161(12):2909-2919	Original Article
9	Jitsu Kato, Norimitsu Matsui, Yoshihiro Kakehi, et al	麻醉科	Long-term safety and efficacy of mirogabalin in Asian patients with postherpetic neuralgia Results from an open-label extension of a multicenter randomized, double-blind, placebo-controlled trial	Medicine 2020;99/36:e21976	Original Article
10	Sasaki R, Kanda T, Fujisama M, et al.	消化器・肝臓内科	Different Mechanisms of Action of Regorafenib and Lenvatinib on Toll-Like Receptor-Signaling Pathways in Human Hepatoma Cell Lines.	International Journal of Molecular Sciences. 2020 May; 21(9): 3349.	Original Article
11	Imazu H, Ho SH, Hino S, et al.	消化器・肝臓内科	Impact of a Novel Oblique-Tip Papillotome for Biliary Cannulation during ERCP: A Nonrandomized Coarsened Exact Matching Study.	Gastroenterology Research and Practice. 2020 May; 2020: 2417841.	Original Article
12	Iwamoto M, Gotoda T, Noda Y, et al.	消化器・肝臓内科	Gastric Neuroendocrine Carcinoma with Rapid Progression.	Internal Medicine. 2020 May; 59(10): 1271-1276.	Case report

13	Kanda T, Sasaki R, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Cell Culture Systems and Drug Targets for Hepatitis A Virus Infection.	Viruses. 2020 May; 12(5): 533.	Review
14	Ishii T, Tamura A, Shibata T, et al.	消化器・肝臓内科	Analysis of HBV Genomes Integrated into the Genomes of Human Hepatoma PLC/PRF/5 Cells by HBV Sequence Capture-Based Next-Generation Sequencing.	Genes. 2020 Jun; 11(6): 661.	Original Article
15	Takahashi H, Kanda T, Matsumoto N, et al.	消化器・肝臓内科	Analysis of full-length hepatitis B virus genome from chronic hepatitis B-patients with higher alanine aminotransferase elevation.	Future Virology. 2020 Jul; 15(7): 429-439.	Original Article
16	Masuzaki R, Kanda T, Sasaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Noninvasive Assessment of Liver Fibrosis: Current and Future Clinical and Molecular Perspectives.	International Journal of Molecular Sciences. 2020 Jul; 21(14): 4906.	Review
17	Masuzaki R, Kanda T, Sasaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Application of artificial intelligence in hepatology: Minireview.	Artificial Intelligence in Gastroenterology. 2020 Jul; 1(1): 5-11.	Review
18	Fujisawa M, Kanda T, Shibata T, et al.	消化器・肝臓内科	Involvement of the Interferon Signaling Pathways in Pancreatic Cancer Cells.	Anticancer Research. 2020 Aug; 40(8): 4445-4455.	Original Article
19	Iwamoto M, Kato K, Moriyama M, et al.	消化器・肝臓内科	Remission of ulcerative colitis flare-up induced by nivolumab.	International Journal of Colorectal Disease. 2020 Sep; 35(9): 1791-1795.	Case report
20	Kanda T, Sasaki R, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Co-Occurrence of Hepatitis A Infection and Chronic Liver Disease.	International Journal of Molecular Sciences. 2020 Sep; 21(17): 6384.	Review
21	Kanda T, Sasaki R, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Additive Effects of Zinc Chloride on the Suppression of Hepatitis A Virus Replication by Interferon in Human Hepatoma Huh7 Cells.	In Vivo. 2020 Nov; 34(6): 3301-3308.	Original Article

22	Kamimura S, Tamura A, Ishii T, et al.	消化器・肝臓内科	Association of Genetic Polymorphisms With Hepatitis C Virus-related Liver Cirrhosis in Japan.	In Vivo. 2020 Nov; 34(6): 3309-3313.	Original Article
23	Honda M, Asakura H, Kanda T, et al.	消化器・肝臓内科	Male-Dominant Hepatitis A Outbreak Observed among Non-HIV-Infected Persons in the Northern Part of Tokyo, Japan.	Viruses. 2021 Jan; 13(2): 207.	Original Article
24	Masuzaki R, Ray KC, Roland J, et al.	消化器・肝臓内科	Integrin $\beta 1$ Establishes Liver Microstructure and Modulates Transforming Growth Factor β during Liver Development and Regeneration.	The American Journal of Pathology. 2021 Feb; 191(2): 309-319.	Original Article
25	Kanda T, Sasaki R, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Artificial intelligence and machine learning could support drug development for hepatitis A virus internal ribosomal entry sites.	Artificial Intelligence in Gastroenterology. 2021 Feb; 2(1): 1-9.	Review
26	Takahashi H, Kanda T, Matsumoto N, et al.	消化器・肝臓内科	HCV GT1b-patient with alanine aminotransferase elevation and sustained virologic response achieved by grazoprevir/elbasvir discontinuation.	Future Virology. 2021 Mar; 16(3): 161-165.	Case report
27	Midorikawa Y, Yamamoto S, Tatsuno K, et al.	消化器外科	Accumulation of Molecular Aberrations Distinctive to Hepatocellular Carcinoma Progression	Cancer Res. 2020年9月 15;80(18):3810-3819.	Original Article
28	Kobayashi N, Aramaki O, Midorikawa Y, et al.	消化器外科	Impact of marginal resection for hepatocellular carcinoma.	Surg Today. 2020年11月;50(11):1471-1479	Original Article
29	Yamazaki S, Takayama T, Mitsuka Y, et al.	消化器外科	Platelet recovery correlates parenchymal volume recovery after liver resection.	Hepatol Res. 2020年5月;50(5):620-628.	Original Article

30	Midorikawa Y, Takayama T, Nakayama H, et al.	消化器外科	Favorable outcomes of surgical resection for extrahepatic recurrent hepatocellular carcinoma	Hepatol Res. 2020年8月;50(8):978-984.	Original Article
31	Fujisaki S, Takashina M, Sakurai KI, et al.	消化器外科	Granulomatous cholangitis mimicking hilar cholangiocarcinoma: a case report.	BMC Gastroenterol. 2020 Nov 4;20(1):369.	Case report
32	Yamazaki S, Takayama T, Mitsuka Y, et al.	消化器外科	Predictive value of perfusion CT for blood loss in liver resection.	Biosci Trends. 2020年11月 4;14(5):384-389.	Original Article
33	Mitsuka Y, Yamazaki S, Yoshida N, et al.	消化器外科	Time interval-based indication for liver resection of metastasis from pancreatic cancer	World J Surg Oncol. 2020年11月 10;18(1):294.	Original Article
34	Yamazaki S, Takayama T, Kurokawa T, et al.	消化器外科	Next-generation desr-carboxy prothrombin for immunohistochemical assessment of vascular invasion by hepatocellular carcinoma	BMC Surg. 2020年9月 14;20(1):201.	Original Article
35	Midorikawa Y, Takayama T, Higaki T, et al.	消化器外科	High platelet count as a poor prognostic factor for liver cancer patients without cirrhosis	Biosci Trends. 2020年11月 4;14(5):368-375.	Original Article
36	Fujisaki S, Sakurai K, Tomita R, et al.	消化器外科	Gallstone ileus with cholecysto-ileal fistula: One stage surgery in an extremely-elderly patient	Asian J Surg. 2020年11月;43(11):1115-1116.	Case report
37	Takagi K, Midorikawa Y, Takayama T, et al.	消化器外科	Effects of Pyrrole-Imidazole Polyamides Targeting Human TGF- β 1 on the Malignant Phenotypes of Liver Cancer Cells	Molecules. 2020年6月 23;25(12):2883	Original Article
38	Yamazaki S, Takayama T, Yoshida N, et al.	消化器外科	Aberrant anterior branch of segment V traveling ventrally across the gallbladder: a case of critical anatomy	Surg Radiol Anat. 2020年12月 ;42(12):1479-1481.	Case report

39	Kano H, Midorikawa Y, Song P, et al.	消化器外科	High C-reactive protein/albumin ratio associated with reduced survival due to advanced stage of intrahepatic cholangiocarcinoma	Biosci Trends. 2020年9月21;14(4):304-309.	Original Article
40	Midorikawa Y, Takayama T, Higaki T, et al.	消化器外科	Selection of patients with esophageal varices for liver resection of hepatocellular carcinoma	Biosci Trends. 2021年1月23;14(6):436-442.	Original Article
41	Midorikawa Y, Takayama T, Higaki T, et al.	消化器外科	Comparison of the surgical outcomes in patients with synchronous versus metachronous multiple hepatocellular carcinoma	Biosci Trends. 2021年1月23;14(6):415-421.	Original Article
42	Yamazaki S, Takayama T, Matsuno Y, et al.	消化器外科	Subcuticular sutures reduce surgical site infection after repeat liver resection: a matched cohort analysis	Biosci Trends. 2021年1月23;14(6):422-427.	Original Article
43	Obinata, Lawrence, Takayama, et al.	泌尿器科	Recent Discoveries in the Androgen Receptor Pathway in Castration-Resistant Prostate Cancer	Front Oncol, 2020 Oct 8;10:581515	Review
44	Irie Y, Obinata D, Tsukada J, et al.	泌尿器科	Successful lymphatic embolization using N-butyl-2-cyanoacrylate for postoperative lymphorrhea in a patient with renal pelvic cancer.	Radiol Case Rep. 2020 Sep 3;15(11):2139-2143	Case report
45	Obinata D, Suzuki S, Yamanaka Y, et al.	泌尿器科	Low reduction of prostate volume is a significant predictor of prostate cancer at subsequent biopsy in patients with dutasteride: A retrospective study.	Andrologia. 2020 Dec;52(11):e13810	Original Article

46	Yoshizawa T, Yamaguchi K, Kawata N, et al.	泌尿器科	An ERG Gene Analysis in Two Cases with Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer in Which Abiraterone Demonstrated Long-term Efficacy.	Intern Med. 2020 Feb 1;59(3):395-399	Original Article
47	Shoji J	眼科	Ocular allergy test and biomarkers on the ocular surface: Clinical test for evaluating the ocular surface condition in allergic conjunctival diseases	Allergology International 2020	Review
48	Sakimoto T, Sakimoto A, Yamagami S	眼科	Autologous transplantation of conjunctiva by modifying simple limbal epithelial transplantation for limbal stem cell deficiency	Jpn J Ophthalmol	Original Article
49	Gon Y, Shimizu T, Mizumura K, et al.	呼吸器内科	Molecular techniques for respiratory diseases: MicroRNA and extracellular vesicles.	Respirology. 2020 Feb;25(2):149-160.	Original Article
50	Hiranuma H, Gon Y, Maruoka S, et al.	呼吸器内科	DsRNA induction of microRNA-155 disrupt tight junction barrier by modulating claudins.	Asia Pac Allergy. 2020 Apr 27; 10(2):e20.	Original Article
51	Iida Y, Kumasawa F, Shimizu T, et al.	呼吸器内科	Successful treatment of an elderly patient with an uncommon L861Q epidermal growth factor receptor mutation with low-dose afatinib: A case report.	Thorac Cancer. 2020 Feb; 11(2):447-450.	Case report
52	Kozu Y, Kurosawa Y, Yamada S, et al.	呼吸器内科	Cluster analysis identifies a pathophysiologically distinct subpopulation with increased serum leptin levels and severe obstructive sleep apnea.	Sleep Breath. 2021 Jun;25(2):767-776. Online ahead of print 2020 Sep 4 doi: 10.1007/s11325-020-02160-8.	Original Article
53	Mizumura K, Maruoka S, Shimizu T, et al.	呼吸器内科	Role of Nrf2 in the pathogenesis of respiratory diseases.	Respir Investig. 2020 Jan;58(1):28-35.	Original Article

54	Iida Y, Okamoto-Katsuyama M, Maruoka S, et al.	呼吸器内科	Effective ferroptotic small-cell lung cancer cell death from SLC7A11 inhibition by sulforaphane.	Oncol let. 2021 Jan; 21(1):71. Epub 2020 Nov 25.	Original Article
55	Gon Y, Nishi K, Sato K, et al.	呼吸器内科	Efficacy and safety of glycopyrrolate/formoterol fumarate metered dose inhaler delivered using co-suspension delivery technology in Japanese patients with moderate-to-very severe chronic obstructive pulmonary disease.	Respiratory Investigation. 2021 Jan; 59(1): 135-144. Epub 2020 Sep 8.	Original Article
56	Shimizu T, Nakagawa Y, Iida Y, et al.	呼吸器内科	The Diagnosis of Exogenous Lipoid Pneumonia Caused by the Silent Aspiration of Vegetable Oil Using a Lipidomic Analysis.	INTERNAL MEDICINE. 2020 Feb 1; 59(3):409-414.	Case report
57	Gon Y, Hikichi M, Hashimoto S	呼吸器内科	Asthma COPD overlap (ACO); Advances in Asthma	Pathophysiology, Diagnosis and Treatment. 2020.7	Others
58	Iida A, Maeda H, Ishii Y, et al.	心臓血管外科	The role of ultrasound imaging in operative treatment for a rare case of inferior vena cava tumor	Journal of Medical Ultrasonics. 2020 July;47(3) : 485-486	Case report
59	Sezai A, Unosawa S, Taoka M, et al.	心臓血管外科	Changeover Trial of Febuxostat and Topiroxostat for Hyperuricemia With Cardiovascular Disease: Sub-Analysis for Chronic Kidney Disease (TROFEO CKD Trial)	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Aug;26(4) : 202-208	Original Article
60	Hayashi Y, Taoka M, Osaka S, et al.	心臓血管外科	Iatrogenic acute aortic dissection caused by intervention for spontaneous coronary artery dissection: a surgical case report	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2020 Sep;15(1) : No.280 (オンライン)	Case report

61	Yoshinori Inagaki , Dan Wu , Kyoko Fujiwara , et al	総合内科	Knockdown of E2F5 induces cell death via the TP53-dependent pathway in breast cancer cells carrying wild-type TP53	Oncology Reports. 2020Nov;44(5):2241-2252.	Original Article
62	Ishibashi N, Maebayashi T, Nishimaki H, et al.	放射線治療科	Computed Tomography of Lymph Node Metastasis Before and After Radiation Therapy: Correlations With Residual Tumour	In Vivo. Sep-Oct 2020;34(5):2721-2725.	Original Article
63	Ishibashi N, Maebayashi T, Hata M, et al.	放射線治療科	The role of palliative radiation therapy in treating pleural or peritoneal disseminated tumors: 22 cases and a review of the literature	Ann Palliat Med. 2020 Sep;9(5):2586-2591.	Original Article
64	Sakaguchi M, Maebayashi T, Aizawa T, et al.	放射線治療科	Successful treatment of nonsmall cell lung cancer patients with leptomeningeal metastases using whole brain radiotherapy and tyrosine kinase inhibitors	J Cancer Res Ther. 2020 Jul-Sep;16(4):930-932.	Original Article
65	Maebayashi T, Ishibashi N, Aizawa T, et al.	放射線治療科	Stereotactic radiotherapy for hepatocellular carcinoma induced by hepatitis C and the relationships of changes in carbohydrate antigen 19-9 with AFP and PIVKA-II	Cancer Radiother. 2021 May;25(3):242-248.	Original Article
66	Tsukada J, Mela P, Jinzaki M, et al.	放射線診断科	Developing of in vitro endothelialized drug-eluting stent using human peripheral blood-derived endothelial progenitor cells.	Stem Cell Rev Rep. 2021 Aug 17.	Original Article
67	Tsukada J, Yamada Y, Kawakami T, et al.	放射線診断科	Treatment effect prediction using CT after balloon pulmonary angioplasty in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Eur Radiol. 2021 Aug;31(8):5524-5532.	Original Article

68	Shibutani K, Okada M, Tsukada J, et al.	放射線診断科	Predictive value of combined computed tomography volumetry and magnetic resonance elastography for major complications after liver resection.	Abdom Radiol (NY). 2021 Jul;46(7):3193-3204.	Original Article
69	I. Kanamori T, Suzuki M, Kaneko Y, et al.	精神神経科	Severe fatigue due to valproate-induced hypothyroidism in a case of bipolar disorder.	Annals of General Psychiatry, 19: article number 49 (オンライン), 2020.	Case report
70	Kaneko Y, Suzuki M, Ishihara M, et al.	精神神経科	A case of high altitude cerebral edema with a prolonged motivational deficit.	Wilderness & Environmental Medicine, 32: 88-91, 2021.	Case report
71	Kaneko Y, Suzuki M, Kawae A, et al.	精神神経科	Exploding head syndrome accompanied by repeating panic attacks: A case report	Frontiers in Psychiatry, Article 613420 (オンライン), 2021	Case report
72	Yokota Y, Hara M, Akimoto T, et al.	脳神経内科	Late-onset MELAS syndrome with mtDNA 14453G→A mutation masquerading as an acute encephalitis: a case report.	BMC Neurol. 2020;20(1):247.	Case report
73	Ogawa K, Akimoto T, Takahashi K, et al.	脳神経内科	A case of prosopometamorphopsia caused by infarction of the splenium of the corpus callosum and major forceps.	Neurocase. 2020;26(5):264-269.	Case report
74	Akimoto T, Hirose S, Mizoguchi T, et al.	脳神経内科	Ruptured long intramedullary spinal cord abscess successfully treated with antibiotic treatment.	J Clin Neurosci. 2020;82(Pt B):249-251.	Case report
75	Nakajima T, Ikeda Y, Kawana K, et al.	産婦人科	Reconstructed uterine length is critical for the prevention of cervical stenosis following abdominal trachelectomy in cervical cancer patients	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2020 Feb;46(2):328-336	Original Article

76	Taguchi A, Kawana K, Fujii T, et al.	産婦人科	Multistate Markov model to predict the prognosis of high-risk human papillomavirus-related cervical lesions	Cancers, 2020 Jan 22;12(2):270	Original Article
77	Baba S, Komatsu A, Kawana K, et al.	産婦人科	Differential expression of human papilloma virus 16-, 18-, 52-, and 58-derived transcripts in cervical intraepithelial neoplasia	Virology Journal, 2020;17(1): 32-40.	Original Article
78	Onda T, Kawana K, Yoshikawa H, et al.	産婦人科	Comparison of survival between primary debulking surgery and neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers in phase III randomized trial	European Journal of Cancer, 2020 May;130:114-125	Original Article
79	Maebayashi A, Nagaishi M, Kawana K, et al.	産婦人科	Successful surgical treatment of cardiac metastasis from uterine leiomyosarcoma: a case report and literature review	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2020 May;46(5)	Original Article
80	Ikeda Y, Sato S, Hasegawa K, et al.	産婦人科	High expression of maternal embryonic leucine-zipper kinase (MELK) impacts clinical outcomes in patients with ovarian cancer and its inhibition suppresses ovarian cancer cells growth ex vivo	Journal of Gynecologic Oncology, 2020 Nov;31(6):e93	Original Article
81	Nishijima T, Kawana K, Fujii T, et al.	産婦人科	Effectiveness and Tolerability of Oral Amoxicillin in Pregnant Women with Active Syphilis, Japan, 2010-2018	Emerging Infectious Diseases, 2020 Jun;26(6):1192-1200	Original Article
82	Samejima T, Komatsu A, Kawana K, et al.	産婦人科	Impact of additional risk factors on the incidence of preterm delivery among pregnant women diagnosed with short cervix.	Taiwanese Journal of Obstetrics & Gynecology, 2020 Mar;59(2):195-199	Original Article

83	Tsuchida S, Umemura H, Nakayama T	臨床検査医学科	Current Status of Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization-Time-of-Flight Mass Spectrometry (MALDI-TOF MS) in Clinical Diagnostic Microbiology.	Molecules 2020 Oct 17;25(20):4775.	Original Article
84	Yoshikawa M, Asaba K, Nakayama T:	臨床検査医学科	The APLNR gene polymorphism rs7119375 is associated with an increased risk of development of essential hypertension in the Chinese population: A meta-analysis.	Medicine (Baltimore). 2020 Dec 11;99(50):e22418. doi: 10.1097/MD.00000000000022418. PMID: 33327224 Free PMC article.	Original Article
85	Naruse H, Umemura H, Nakayama T	臨床検査医学科	Identification of a novel frameshift c.930delG MEN1 germline mutation (p.Glu273LysfsTer7) in a sporadic case of multiple endocrine neoplasia type 1: A case report.	Molecular Medicine Reports. (Mol Med Rep.) 2020 Dec;22(6):5423-5427.	Original Article
86	Kono A, Shinya K, Nakayama T, et al.	臨床検査医学科	Haplotype-based, Case-Control Study of Myosin Phosphatase Target Subunit 1 (PPP1R12A) Gene and Hypertensive Disorders of Pregnancy.	Hypertension Pregnancy 2021 Feb;40(1):88-96.	Original Article
87	Umemura H, Miura K, Naruse H, et al.	臨床検査医学科	Identification of a novel ACVRL1 gene mutation (c.100T>A, p.Cys34Ser) in a Japanese patient with possible hereditary hemorrhagic telangiectasia (Osler-Weber-Rendu disease).	Acta Medica Okayama 2020 Apr;74(2):165-169.	Case report
88	Tsuchida S, Nakayama T	臨床検査医学科	Proteomic analysis of human immunodeficiency virus and periodontitis.	Expert Rev Proteomics. Nov-Dec 2020;17(11-12):793-795.	Review
89	Arai N, Kawachi R, Nakazato Y, et al.	呼吸器外科 (杏林大学)	A rare post-lobectomy complication of right-to-left shunt via foramen ovale.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Nov;68(11):1337-1340.	Case report

90	Yotsukura M, Asamura H, Suzuki S, et al.	呼吸器外科 (国立がん研究センター)	Prognostic impact of cancer-associated active fibroblasts and invasive architectural patterns on early-stage lung adenocarcinoma	Lung Cancer. 2020 Jul;145:158-166.	Original Article
91	Hisataka Kitano, Atsushi Mamiya, Tomomi Ishikawa, et al.	歯科口腔外科	An epidermal growth factor motif of developmental endothelial locus 1 protein inhibits efficient angiogenesis in explanted squamous cell carcinoma in vivo.	Rev Invest Clin. 2020 May 7;73(5)	Original Article
92	Hisataka Kitano, Souichi Aizawa, Atsushi Mamiya, et al.	歯科口腔外科	Oral multicentric carcinoma arising from 4 different sites in a woman.	Journal of Oral Science. 2020 Sep 2.	Original Article
93	Hisataka Kitano, Yoh Masaoka, Atsushi Mamiya, et al.	歯科口腔外科	Combination Cancer Therapy of a Dell Fragment and Cisplatin Enhanced Therapeutic Efficiency In Vivo.	In Vivo. 2021. 35(2):779-791.	Original Article
94	Hanaruguri J, Yokota H, Watanabe M, et al	眼科	Longitudinal stability of retinal blood flow regulation in response to flicker stimulation and systemic hyperoxia in mice assessed with laser speckle flowgraphy	Sci Rep. 2020	Original Article
95	Miyamoto R, Sakimoto T, Homma T. et al	眼科	A rare case of corneal keloid occurred 30 years after pterygium surgery and 3 years after cataract surgery	Am J Ophthalmol Case Rep. 2020	Case report
96	Shoji J, Inada N, Tomioka A. et al	眼科	Assessment of mucin-related gene alterations following treatment with rebamipide ophthalmic suspension in Sjögren's syndrome-associated dry eyes	PLoS One. 2020	Original Article

97	Hijikata M, Okahashi A, Nagano N, Morioka I	小児科	Clinical characteristics of congenital toxoplasmosis with poor outcome in Japan: A nationwide survey and literature review.	Congenital Anomalies. 2020; 60 (6): 194-198	Original Article
98	Kayama K, Hosono S, Yoshikawa K, Kato R, Seimiya A, Fuwa K, Hijikata M, Aoki R, Okahashi A, Nagano N, Morioka I	小児科	Heart rate evaluation using fetal ultrasonic Doppler during neonatal resuscitation.	Pediatrics International. 2020; 62 (8): 926-931	Original Article
99	Fuwa K, Nagano N, Kitamura Y, Iwata F, Okada T, Morioka	小児科	Umbilical cord blood stearyl-CoA desaturase index and lipoprotein lipase mass level in small-for-gestational age newborns.	Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids. 2020; 156:102028.	Original Article
100	Fukuzumi N, Osawa K, Sato I, Iwatani S, Ohnuma K, Imanishi T, Iijima K, Saegusa J, Morioka I	小児科	Detection of bacterial infection based on age-specific percentile-based reference curve for serum procalcitonin level in preterm infants.	Clinical Laboratory. 2020; 66 (1): 105-112.	Original Article
101	Iwatani S, Yamana K, Nakamura H, Nishida K, Morisawa T, Mizobuchi M, Osawa K, Iijima K, Morioka I	小児科	A novel method for measuring serum unbound bilirubin levels using glucose oxidase-peroxidase and bilirubin-inducibile fluorescent protein, UnaG: No influence of direct bilirubin.	International Journal of Molecular Sciences. 2020; 21 (18): 6778.	Original Article

102	Morioka I, Kakei Y, Omori T, Nozu K, Fujioka K, Yoshikawa T, Moriuchi H, Ito Y, Oka A	小児科	Efficacy and safety of valganciclovir in patients with symptomatic congenital cytomegalovirus disease: study protocol clinical trial (SPIRIT compliant).	Medicine. 2020; 99 (17): e19765.	Original Article
103	Yamada H, Tanimura K, Fukushima S, Fujioka K, Deguchi M, Sasagawa Y, Tairaku S, Funakoshi T, Morioka I	小児科	A cohort study of universal neonatal urine screening for congenital cytomegalovirus infection. <i>Journal of Infection and Chemotherapy</i> . 2020; 26 (8): 790-794.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2020; 26 (8): 790-794.	Original Article
104	Nishida K, Fujioka K, Sugioka Y, Abe S, Ashina M, Fukushima S, Ohyama S, Ikuta T, Tanimura K, Yamada H, Iijima K, Morioka I:	小児科	Prediction of neurodevelopmental impairment in congenital cytomegalovirus infection by early postnatal magnetic resonance imaging. <i>Neonatology</i> . 2020; 117 (4): 460-466.	Neonatology. 2020; 117 (4): 460-466.	Original Article
105	Umazume T, Miyagi E, Haruyama Y, Kobashi G, Saito S, Hayakawa S, Kawana K, Ikenoue S, Morioka I, Yamada H	小児科	A survey of personal protective equipment and COVID-19 tests for pregnant women in Japan.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2020; 46 (10): 1933-1939.	Original Article
106	Okumura A, Morioka I, Arai H, Hayakawa M, Maruo Y, Kusaka T, Kunikata T, Kumada S	小児科	A nationwide survey of bilirubin encephalopathy in preterm infants in Japan.	Brain and Development. 2020; 42 (10): 730-737	Original Article

107	Imafuku H, Yamada H, Uchida A, Deguchi M, Shirakawa T, Sasagawa Y, Shi Y, Fujioka K, Morioka I, Tanimura K	小児科	Clinical and ultrasound features associated with congenital cytomegalovirus infection as potential predictors for targeted newborn screening in high-risk pregnancies.	Scientific Reports. 2020; 10 (1): 19706.	Original Article
108	Saitoh Ay, Saitoh Ak, Katsuta T, Mine M, Kamiya H, Miyairi I, Ishiwada N, Oshiro M, Kira R, Shimizu N, Suga S, Tsugawa T, Fujioka M, Miyazaki C, Morioka I, Korematsu S, Nakano T, Tanaka-Taya K, Yoshikawa T, Iwata S, Kusuhara K, Azuma H, Moriuchi H, Okabe N, Hosoya M, Tsutsumi H, Okada K	小児科	Effect of a vaccine information statement (VIS) on immunization status and parental knowledge, attitudes, and beliefs regarding infant immunization in Japan.	Vaccine. 2020; 38 (50): 8049-8054.	Original Article
109	Ozawa J, Watanabe T, Ito M, Miyake F, Nagano N, Ogawa R, Matsumura S, Araki R, Tamura M, Namba F	小児科	Defining the reference range of regional cerebral tissue oxygen saturation using a new portable near-infrared spectroscopy device for term infants.	Early Human Development. 2020; 141: 104941.	Original Article

110	Nagano N, Kitajima H, Morioka I	小児科	Japanese original delayed hepatitis B vaccination provides adequate immunogenicity against mother-to- child hepatitis B virus infection in preterm infants: A nationwide survey in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2020; 26 (4): 385-388.	Original Article
111	Tanaka K, Watanabe T, Ozawa J, Ito M, Nagano N, Arai Y, Miyake F, Matsumura S, Kobayashi S, Itakura R, Namba F	小児科	Difference in pyruvic acid metabolism between neonatal and adult mouse lungs exposed to hyperoxia.	LoS One. 2020; 15 (9): e0238604.	Original Article
112	Nagano N, Tanaka K, Ozawa J, Watanabe T, Miyake F, Matsumura S, Osada K, Matsuoka K, Tamura M, Namba F	小児科	Attenuation of hyperoxic lung injury in newborn thioredoxin-1- overexpressing mice through the suppression of proinflammatory cytokine mRNA expression.	Biomedicines. 2020; 8 (3): 66.	Original Article
113	Go H, Nagano N, Katayama D, Akimoto T, Imaizumi T, Aoki R, Hijikata M, Seimiya A, Kato R, Okahashi A, Morioka I	小児科	Diagnostic accuracy of biomarkers for early-onset neonatal bacterial infections: Evaluation of serum procalcitonin reference curves. Diagnostics. 2020; 10 (10): 839.	Diagnostics. 2020; 10 (10): 839.	Original Article

114	Uchiyama A, Okazaki K, Kondo M, Oka S, Motojima Y, Namba F, Nagano N, Yoshikawa K, Kayama K, Kobayashi A, Soeno Y, Numata O, Suenaga H, Imai K, Maruyama H, Fujinaga H, Furuya H, Ito Y, and Non-invasive procedure for premature neonates (NIPPN) study group	小児科	Randomized controlled trial of high-flow nasal cannula in preterm infants after extubation.	Pediatrics. 2020; 146 (6): e20201101.	Original Article
115	Ishii W, Fujita Y, Kawaguchi T, Kimura K, Fukuda A, Fuchigami T, Morioka I	小児科	Cerebral autoregulation during active standing test in juvenile patients with instantaneous orthostatic hypotension.	Advances in Experimental Medicine and Biology. 2020; 1232; 77-83.	Original Article
116	Kawaguchi T, Fujita Y, Ishii W, Kimura K, Fukuda A, Fuchigami T, Morioka I	小児科	Cerebral blood oxygenation changes in juvenile patients with delayed orthostatic hypotension during an active standing test.	Advances in Experimental Medicine and Biology. 2020; 1232: 85-90.	Original Article
117	Jimbo S, Noto N, Okuma H, Kato M, Komori A, Ayusawa M, Morioka I	小児科	Normal reference values for left atrial strains and strain rates in school children assessed using two-dimensional speckle-tracking echocardiography.	Heart and Vessels. 2020; 35 (9): 1270-1280.	Original Article

118	Hirono K, Miyao N, Yoshinaga M, Nishihara E, Yasuda K, Tateno S, Ayusawa M, Sumitomo N, Horigome H, Iwamoto M, Takahashi H, Sato S, Kogaki S, Ohno S, Hata T, Hazeki D, Izumida N, Nagashima M, Ohta K, Tauchi N, Ushinohama H, Doi S, Ichida F; Study group on childhood cardiomyopathy in Japan	小児科	A significance of school screening electrocardiogram in the patients with ventricular noncompaction.	Heart and Vessels. 2020; 35 (7): 985-995.	Original Article
119	Kiyohara K, Kitamura T, Ayusawa M, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Matsui S, Sobue T, Kitamura Y; SPIRITS investigators	小児科	Incidence, characteristics, and outcomes of pediatric out-of- hospital cardiac arrest in nursery schools and kindergartens in Japan.	Journal of Cardiology. 2020; 76 (6): 549-556.	Original Article
120	Fujisawa J, Mutoh T, Kwamura K, Yonezawa R, Hirai M, Morioka I	小児科	Age-specific differences in foreign bodies ingested by children: a cohort study of 252 Japanese cases.	Medicina. 2020; 56 (1): 39.	Original Article
121	Chen L, Fukuda N, Shimizu S, Kobayashi H, Tanaka S, Nakamura Y, Matsumoto T, Abe M	小児科	Role of complement 3 in renin generation during the differentiation of mesenchymal stem cells to smooth muscle cells.	American Journal of Physiology - Cell Physiology. 2020; 318 (5): C981-C990.	Original Article

122	Urakami T, Yoshida K, Kuwabara R, Mine Y, Aoki M, Suzuki J, Morioka I	小児科	Individualization of recommendations from the international consensus on continuous glucose monitoring-derived metrics in Japanese children and adolescents with type 1 diabetes.	Endocrine Journal. 2020; 67 (10): 1055-1062.	Original Article
123	Urakami T, Yoshida K, Kuwabara R, Mine Y, Aoki M, Suzuki J, Morioka I	小児科	Significance of "time below range" as a glycemic marker derived from continuous glucose monitoring in Japanese children and adolescents with type 1 diabetes.	Hormone Research in Paediatrics. 2020; 93 (4): 251-257.	Original Article
124	Yoshida K, Urakami T, Mine Y, Suzuki J	小児科	Efficacy of zinc supplementation on growth and IGF-1 in prepubertal children with idiopathic short statures and low serum zinc levels.	Clinical Pediatric Endocrinology. 2020; 29 (2): 63-68.	Original Article
125	Onoe H, Kitagawa Y, Shimada H, Shinojima A, Aoki M, Urakami T	小児科	Foveal avascular zone area analysis in juvenile-onset type 1 diabetes using optical coherence tomography angiography.	Japanese Journal of Ophthalmology. 2020; 64 (3): 271-277.	Original Article

126	Sugihara S, Yokota I, Mukai T, Mukai T, Mochizuki T, Nakayama M, Tachikawa E, Kawada Y, Minamitani K, Kikuchi N, Urakami T, Kawamura T, Kawasaki K, Kikuchi T, Amemiya S; Japanese study group of insulin therapy for childhood, adolescent diabetes	小児科	Increased diagnosis of autoimmune childhood-onset japanese type 1 diabetes using a new glutamic acid decarboxylase antibody enzyme-linked immunosorbent assay kit, compared with a previously used glutamic acid decarboxylase antibody radioimmunoassay kit.	Journal of Diabetes Investigation. 2020; 11 (3): 594-602.	Original Article
127	Ushijima K, Okuno M, Ayabe T, Kikuchi N, Kawamura T, Urakami T, Yokota I, Amemiya S, Uchiyama T, Kikuchi T, Ogata T, Sugihara S, Fukami M, Amemiya S, Japanese study group of insulin therapy for childhood, adolescent diabetes	小児科	Low prevalence of maternal microchimerism in peripheral blood of Japanese children with type 1 diabetes.	Diabetic Medicine. 2020; 37 (12): 2131-2135.	Original Article

128	Ogawa E, Fushimi T, Ogawa-Tominaga M, Shimura M, Tajika M, Ichimoto K, Matsunaga A, Tsuruoka T, Ishige M, Fuchigami T, Yamazaki T, Kishita Y, Kohda M, Imai-Okazaki A, Okazaki Y, Morioka I, Ohtake A, Murayama K	小児科	Mortality of Japanese patients with Leigh syndrome: Effects of age at onset and genetic diagnosis.	Journal of Inherited Metabolic Disease. 2020; 43 (4): 819-826.	Original Article
129	Al-Bakri Z, Ishige-Wada M, Fukuda N, Yoshida-Noro C, Nagoshi N, Okano H, Mugishima H, Matsumoto T	小児科	Isolation and characterization of neural crest-like progenitor cells in human umbilical cord blood.	Regenerative Therapy. 2020; 15: 53-56.	Original Article
130	Watanabe H, Goto S, Kato R, Komiyama S, Nagaoka Y, Kazama T, Yamamoto C, Li Y, Konuma N, Hagikura K, Matsumoto T	小児科	The neovascularization effect of dedifferentiated fat cells.	Scientific Reports. 2020; 10 (1): 9211.	Original Article
131	Chin M, Yokoyama R, Sumi M, Okita H, Kawai A, Hosono A, Koga Y, Sano H, Watanabe H, Ozaki T, Mugishima H; Japan Ewing Sarcoma Study Group (JESS)	小児科	Multimodal treatment including standard chemotherapy with vincristine, doxorubicin, cyclophosphamide, ifosfamide, and etoposide for the Ewing sarcoma family of tumors in Japan: Results of the Japan Ewing Sarcoma Study 04.	pediatric Blood & Cancer. 2020; e28194.	Original Article

132	Umeda K, Miyamura T, Yamada K, Sano H, Hosono A, Sumi M, Okita H, Kamio T, Maeda N, Fujisaki H, Jyoko R, Watanabe A, Hosoya Y, Hasegawa D, Takenaka S, Nakagawa S, Chin M, Ozaki T; Japan Ewing Sarcoma Study Group	小児科	Prognostic and therapeutic factors influencing the clinical outcome of metastatic Ewing sarcoma family of tumors: A retrospective report from the Japan Ewing Sarcoma Study Group.	Pediatric Blood & Cancer. 2020; e28844.	Original Article
133	Nakwan N, Jain S, Kumar K, Hosono S, Hammoud M, Elsayed YY, Ariff S, Hasan B, Khowaja W, Poon WB	小児科	An Asian multicenter retrospective study on persistent pulmonary hypertension of the newborn: incidence, etiology, diagnosis, treatment and outcome.	Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine. 2020; 33 (12): 2032-2037.	Original Article
134	Kato R, Hosono S, Takahashi S	小児科	Reference value of brain tissue oxygen saturation in newborns immediately after birth.	Advances in Experimental Medicine and Biology. 2020; 1232: 19-24.	Original Article
135	Tsukada E, Shibuya A, Misawa J, Ichikawa R, Maeda Y, Hishiki T, Kondo Y	小児科	A Japanese nationwide survey for evaluation of the comprehensibility of alternative audiometry display formats: Insight into otolaryngologists' cognitive processes.	Auris Nasus Larynx. 2020; 47 (5): 752-762.	Original Article

136	Kwon G, Okahashi A, Nagano N, Nozaki C, Nakahara E, Fuwa K, Yagasaki H, Kanno H, Morioka I	小児科	Unexplained late-onset hemolytic jaundice preceded by high fetal hemoglobin level in an extremely low birth weight infant.	Clinical Laboratory. 2020; 66 (1): 211-215.	Case report
137	Noto T, Fukuhara J, Fujimoto H, Murabayashi M, Morioka I	小児科	Bone marrow signals without osteolytic lesions on magnetic resonance imaging in a 4-year-old patient with cat-scratch disease.	Pediatrics International. 2020; 62 (2): 242-244.	Case report
138	Ito M, Yagasaki H, Nakahara E, Okuma H, Hirai M, Chin M, Morioka I	小児科	Haploidentical bone marrow transplantation in a child with fatal hepatic failure due to graft-versus-host disease after cord blood transplantation.	Leukemia & Lymphoma. 2020; 61 (5):1263-1264.	Case report
139	Ito M, Yagasaki H, Oba D, Hirai M, Kaneda H, Morioka I	小児科	Successful treatment of stage 4 rhabdomyosarcoma in a female with Williams-Beuren syndrome.	Pediatric Blood & Cancer. 2020; 67 (8): e28442.	Case report
140	Sumi K, Shijo K, Igarashi T, Yamamuro S, Sasano M, Oshima H, Ishige T, Honma T, Yagasaki H, Yoshino A	小児科	Tectal low-grade glioma with H3 K27M mutation.	World Neurosurgery. 2020; 141: 91-100.	Case report

141	Hara K, Nagano N, Hijikata M, Urakami T, Morioka I	小児科	Septic shock caused by cytomegalovirus infection and complicated by congenital panhypopituitarism in a term infant: A case report.	Journal of Nihon University Medical Association. 2020; 79 (1): 41-45.	Case report
142	Abe Y, Ayusawa M, Kawamura K, Yonezawa R, Kato M, Komori A, Kohira R, Morioka I	小児科	A combination therapy for Kawasaki disease with severe complications: a case report.	Open Medicine. 2020; 15: 8-13.	Case report
143	Oshima M, Fukuhara J, Noto T, Noguchi T, Murabayashi M, Ayusawa M, Morioka I	小児科	A case of Kawasaki disease complicated with cerebral salt-wasting syndrome.	Frontiers in Pediatrics. 2020; 8: 325.	Case report
144	Sawada N, Morohashi T, Mutoh T, Kuwana T, Yamaguchi J, Kinoshita K, Morioka I, Hao H	小児科	Moraxella lacunata infection accompanied by acute glomerulonephritis.	Open Medicine. 2020; 15: 962-967.	Case report
145	Yoshida K, Urakami T, Mine Y, Kuwabara R, Morioka I	小児科	Juvenile case with the coexistence of maturity-onset diabetes of the young 1 and later-onset latent autoimmune diabetes in youth.	Journal of Diabetes Investigation. 2020; 11 (4): 1010-1013.	Case report
146	Kuwabara R, Urakami T, Yoshuda K, Morioka I.	小児科	Case of type 2 diabetes possibly caused by excessive accumulation of visceral fat in a child born small-for-gestational age.	Journal of Diabetes Investigation. 2020;11 (5):1366-1369.	Case report

147	Aoki M, Urakami T, Yoshida K, Nagano N, Morioka I	小児科	Three short children born small for gestational age who developed impaired glucose tolerance during growth hormone treatment.	Pediatrics International. 2020; 62 (7): 876-877.	Case report
148	13. Uemura S, Mori T, Nino N, Sakakibara N, Takafuji S, Myojin S, Takami Y, Morioka I, Nishimura N, Kugo M, Iijima K	小児科	An infant with refractory cytomegalovirus-induced thrombocytopenia.	Clinical Case Reports. 2020; 8: 75-78.	Case report
149	Terada H, Fuchigami T, Yonezawa R, Sugiyama C, Takahashi S, Moriuchi Y, Kamioka T, Takahashi Y, Yamanishi M, Otsubo M, Ohashi Y, Negishi J, Morioka I	小児科	Acute focal bacterial nephritis associated with reversible splenic corpus callosum lesion.	International Journal of Clinical Pediatrics. 2020; 9 (3): 82-86	Case report
150	Takahashi S, Otsubo M, Fuchigami T, Sugiyama C, Moriuchi Y, Yonezawa R, Ohashi Y, Furuya T, Kaneda H, Morioka I:	小児科	Acute suppurative thyroiditis with thyroid abscess.	Journal of Pediatrics and Neonatal Medicine. 2020; 2 (3): 121.	Case report

151	Hijikata M, Okahashi A, Morioka I	小児科	Vertical transmission of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 from the mother to the infant. JAMA pediatrics. 2020; 174 (10): 1006-1007.	JAMA pediatrics. 2020; 174 (10): 1006-1007.	Review
152	Nagano N, Morioka I	小児科	Congenital cytomegalovirus infection: epidemiology, prediction, diagnosis, and emerging treatment options for symptomatic infants.	Expert Opinion on Orphan Drugs. 2020; 8: 1-9.	Review
153	Okada K, Mizuno M, Moriuchi H, Kusuda S, Morioka I, Mori M, Okamoto K, Okada K, Yoshihara S, Yamagishi H, Yokoyama U, Kubota T, Kudo K, Takagi M, Ito S, Kanamori Y, Sasahara Y	小児科	The working group for revision of "guidelines for the use of palivizumab in Japan" : A committee report.	Pediatrics International. 2020; 62 (11): 1223-1229.	Review

154	Kobayashi T, Ayusawa M, Suzuki H, Abe J, Ito S, Kato T, Kamada M, Shiono J, Suda K, Tsuchiya K, Nakamura T, Nakamura Y, Nomura Y, Hamada H, Fukazawa R, Furuno K, Matsuura H, Matsubara T, Miura M, Takahashi K	小児科	Revision of diagnostic guidelines for Kawasaki disease (6th revised edition).	Pediatrics International. 2020; 62 (10): 1135-1138.	Review
155	Fukazawa R, Kobayashi J, Ayusawa M, Hamada H, Miura M, Mitani Y, Tsuda E, Nakajima H, Matsuura H, Ikeda K, Nishigaki K, Suzuki H, Takahashi K, Suda K, Kamiyama H, Onouchi Y, Kobayashi T, Yokoi H, Sakamoto K, Ochi M, Kitamura S, Hamaoka K, Senzaki H, Kimura T; Japanese Circulation Society Joint Working Group	小児科	JCS/JSCS 2020 guideline on diagnosis and management of cardiovascular sequelae in Kawasaki disease.	Circulation Journal. 2020; 84 (8): 1348-1407.	Review
156	Urakami T	小児科	History of insulin treatment in children and adolescents with diabetes in Japan.	Pediatric Endocrinology Reviews. 2020;17 (Suppl 1): 220-221.	Review

157	Urakami T	小児科	Severe hypoglycemia: Is It still a threat for children and adolescents with type 1 diabetes?	Frontiers in Endocrinology. 2020; 11: 609.	Review
158	Ayusawa M	小児科	Obituary for Dr. Tomisaku Kawasaki (7 February, 1925-5 June, 2020).	Journal of Cardiology. 2020; 76 (6): 533.	Review
159	Ayusawa M	小児科	Obituary for Dr. Tomisaku Kawasaki (February 7, 1925-June 5, 2020).	Pediatrics International. 2020; 62 (10): 1129-1130.	Review
160	Hirai R, Oshima T	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Silicone plug insertion for treatment of refractory patulous eustachian tube after irradiation. Hirai R, Oshima T	Acta Otolaryngol Case Reports 5(1):106-110, 2020	Case report
161	中村一博	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Type 4 Thyroplasty for Patients with Male to Female Gender Identity Disorder	耳鼻臨床 113:8:526~527, 2020	Review
162	Kitano D, Takayama T, Fukamachi D, et al	循環器内科	Impact of low-dose prasugrel on platelet reactivity and cardiac dysfunction in acute coronary syndrome patients requiring primary drug-eluting stent implantation: A randomized comparative study.	Catheter Cardiovasc Interv. 2020 Jan;95(1):E8-E16	Original Article
163	Nagashima K, Hiro T, Fukamachi D, et al	循環器内科	Anomalous origin of the coronary artery coursing between the great vessels presenting with a cardiovascular event (J-CONOMALY Registry).	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2020 Feb 1;21(2):222-230.	Original Article

164	Kogawa R, Okumura Y, Yokoyama K, et al.	循環器内科	University hospitals, general hospitals, private clinics: Place-based differences in patient characteristics and outcomes of AF-A SAKURA AF Registry Substudy.	J Cardiol. 2020 Jan;75(1):74-81.	Original Article
165	Arai R, Fukamachi D, Ebuchi Y, et al.	循環器内科	Potential Utility of Non-gated Enhanced Computed Tomography for an Early Diagnosis of Myocardial Infarctions.	Intern Med. 2020 Jan 15;59(2):215-219.	Case report
166	Nagashima K, Okumura Y, Yokoyama K, et al.	循環器内科	Comparison of continuous 24-h and 14-day monitoring for detection of otherwise unknown atrial fibrillation: a registry to identify Japanese concealed atrial fibrillation (REAL-AF)-based study.	Heart Vessels. 2020 May;35(5):689-698.	Original Article
167	Nakai T, Mano H, Ikeya Y, et al.	循環器内科	Narrower QRS may be enough to respond to cardiac resynchronization therapy in lightweight patients.	Heart Vessels. 2020 Jun;35(6):835-841.	Original Article
168	Kurokawa S, Nagashima K, Watanabe R, et al.	循環器内科	Optimal diameter of the pulmonary vein ostium for second-generation 28-mm cryoballoon ablation of atrial fibrillation.	Pacing Clin Electrophysiol. 2020 Feb;43(2):201-209.	Original Article
169	Hori K, Okumura Y, Koichi N, et al.	循環器内科	Association of patient satisfaction with direct oral anticoagulants and the clinical outcomes: Findings from the SAKURA AF registry.	J Cardiol. 2020 Jul;76(1):80-86.	Original Article

170	Saito Y, Okumura Y, Nagashima K,	循環器内科	Impact of the Fibrosis-4 Index on Risk Stratification of Cardiovascular Events and Mortality in Patients with Atrial Fibrillation: Findings from a Japanese Multicenter Registry.	J Clin Med. 2020 Feb 21;9(2):584.	Original Article
171	Tamiya R, Saito Y, Fukamachi D, et al.	循環器内科	Desmin-related myopathy characterized by non-compaction cardiomyopathy, cardiac conduction defect, and coronary artery dissection.	ESC Heart Fail. 2020 Jun;7(3):1338-1343.	Case report
172	Hayase M, Yoda S, Hatta T, et al.	循環器内科	Prognostic Significance of the Residual SYNTAX Score and Ischemic Reduction Detected with Nuclear Cardiology for Prediction of Major Cardiac Events after Revascularization.	Intern Med. 2020 Jun 1;59(11):1361-1371.	Original Article
173	Kitano D, Yoda S, Fukamachi D, Okumura Y.	循環器内科	Coronary erosion following ST-elevated vasospastic coronary obstruction observed by coronary angiography.	Int J Cardiovasc Imaging. 2020 Jul;36(7):1191-1192.	Case report
174	Ikeya Y, Nakai T, Murata N, et al.	循環器内科	Effective Pacing Intervention by Closed-loop Stimulation Using a Coronary Vein Lead in a Post-tricuspid Valve Replacement Patient.	Intern Med. 2020;59(7):963-966.	Case report
175	Kurokawa S, Okumura Y.	循環器内科	Atrial Fibrillation With Valvular Heart Disease - New Insight Into Clinical Outcomes.	Circ J. 2020 Apr 24;84(5):697-699.	Others

176	Okumura Y, Nagashima K.	循環器内科	Editorial to the "safety and efficacy of direct oral anticoagulants compared to vitamin K antagonist post percutaneous coronary artery interventions in patients with atrial fibrillation: A systematic review and meta-analysis".	J Arrhythm. 2020 Feb 17;36(2):280-281.	Others
177	Nagashima K, Wakamatsu Y, Otsuka N, Okumura Y.	循環器内科	His bundle activation during ventricular pacing in long RP tachycardia: What is the mechanism?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jun;31(6):1557-1559.	Case report
178	Otsuka N, Nagashima K, Wakamatsu Y, Okumura Y.	循環器内科	Supraventricular tachycardia with QRS alternans: What is the mechanism?	Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jun;31(6):1560-1562.	Case report
179	Arai R, Yamada A, Mizobuchi S, et al.	循環器内科	Clinical Implications of Cardiac Magnetic Resonance Imaging for Identifying Culprit Lesions in Patients With Suspected Multivessel Acute Myocardial Infarction.	Circ J. 2020 Jun 25;84(7):1195.	Case report
180	Arai R, Fukamachi D, Akutsu N, et al.	循環器内科	Surviving Case of a Blowout-Type Left Ventricular Free Wall Rupture During Percutaneous Coronary Intervention for a Lateral Acute Myocardial Infarction.	Int Heart J. 2020 May 30;61(3):606-610.	Case report
181	Saito Y, Aizawa Y, Iida K, et al.	循環器内科	Clinical Significance of the Controlling Nutritional Status (CONUT) Score in Patients with Infective Endocarditis.	Int Heart J. 2020 May 30;61(3):531-538.	Original Article
182	Nakai T, Ikeya Y, Tsuchiya N, et al.	循環器内科	Benefit of Rate Response with Closed-Loop Stimulation in Patients with Difficult Hemodialysis.	Int Heart J. 2020 May 30;61(3):611-615.	Case report

183	Kuronuma K, Okumura Y, Morikawa T, et al.	循環器内科	Prognostic Value of Serum N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide Level over Heart Failure for Stroke Events and Deaths in Patients with Atrial Fibrillation.	Int Heart J. 2020 May 30;61(3):492-502.	Original Article
184	Nagashima K, Okumura Y.	循環器内科	Editorial to the Postmarketing surveillance on the clinical use of edoxaban in patients with nonvalvular atrial fibrillation (ETNA-AF Japan): One-year safety and effectiveness analyses.	J Arrhythm. 2020 Apr 15;36(3):406-407.	Others
185	Aizawa Y, Okumura Y, Saito Y, et al.	循環器内科	Association of renal resistance index and arterial stiffness on clinical outcomes in patients with mild-to-moderate renal dysfunction and presence or absence of heart failure with preserved ejection fraction.	Heart Vessels. 2020 Dec;35(12):1699-1708.	Original Article
186	Wakamatsu Y, Nakahara S, Nagashima K, et al.	循環器内科	Hot balloon versus cryoballoon ablation for persistent atrial fibrillation: Lesion area, efficacy, and safety.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Sep;31(9):2310-2318.	Original Article
187	Hatta T, Yoda S, Hayase M, et al.	循環器内科	Prognostic Value of Left Ventricular Dyssynchrony Assessed with Nuclear Cardiology in Patients with Known or Suspected Stable Coronary Artery Disease with Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.	Int Heart J. 2020 Jul 30;61(4):685-694.	Original Article

188	Murata N, Okumura Y, Nagashima K, et al.	循環器内科	Gastrointestinal Bleeding From Oral Anticoagulant Therapy Among Japanese Patients With Atrial Fibrillation Identified From the SAKURA Atrial Fibrillation Registry.	Circ J. 2020 Aug 25;84(9):1475-1482.	Original Article
189	Arai R, Fukamachi D, Akutsu N, et al.	循環器内科	Ventricular Septal Rupture After Recent Myocardial Infarction in the Very Elderly.	Int Heart J. 2020;61(4):831-837.	Case report
190	Arai R, Migita S, Koyama Y, et al.	循環器内科	Imaging and Pathology of Eosinophilic Coronary Periarteritis.	JACC Cardiovasc Interv. 2020 Aug 24;13(16):e151-e154.	Case report
191	Kogo T, Hiro T, Kitano D, et al.	循環器内科	Macrophage accumulation within coronary arterial wall in diabetic patients with acute coronary syndrome: a study with in-vivo intravascular imaging modalities.	Cardiovasc Diabetol. 2020 Sep 5;19(1):135.	Original Article
192	Saito Y, Matsumoto N, Aizawa Y, et al.	循環器内科	Clinical significance of spleen stiffness in patients with acute decompensated heart failure.	ESC Heart Fail. 2020 Sep 13;7(6):4005-14.	Original Article
193	Okumura Y, Fukuda I, Nakamura M, et al.	循環器内科	A Multicenter Prospective Observational Cohort Study to Investigate the Effectiveness and Safety of Rivaroxaban in Japanese Venous Thromboembolism Patients (The J'xactly Study).	Circ J. 2020 Oct 23;84(11):1912-1921.	Original Article
194	Nagashima K, Wakamatsu Y, Kurokawa S, et al.	循環器内科	Minimally preexcited tachycardia: What is the mechanism?	HeartRhythm Case Rep. 2020 Jul 10;6(10):805-807.	Case report

195	Wakamatsu Y, Nagashima K, Watanabe R, et al.	循環器内科	Clinical Outcomes of Off-Label Underdosing of Direct Oral Anticoagulants After Ablation for Atrial Fibrillation.	Int Heart J. 2020 Nov 28;61(6):1165-1173.	Original Article
196	Nagashima K, Kaneko Y, Maruyama M, et al.	循環器内科	Novel Diagnostic Observations of Nodoventricular/Nodofascicular Pathway-Related Orthodromic Reciprocating Tachycardia Differentiating From Atrioventricular Nodal Re-Entrant Tachycardia.	JACC Clin Electrophysiol. 2020 Dec;6(14):1797-1807.	Original Article
197	Wakamatsu Y, Nagashima K, Kurokawa S, et al.	循環器内科	Intrascaventricular tachycardia: New concept of scar-reentrant ventricular tachycardia.	HeartRhythm Case Rep. 2020 Sep 24;6(12):933-936.	Case report
198	Asakura K, Homma T, Hao H.	病理診断科	Cardiac Rupture Due to Side Branch Occlusion After Stent Implantation - The Crime of Jailed Stent.	Circulation Journal 2020 84 : 295	Case report
199	Ushio K, Nakanishi K, Mikami Y, Yoshino A, Takamura M, Hirata K, Akiyama Y, Kimura H, Okamoto Y, Adachi N.	整形外科	Altered Resting-State Connectivity with Pain-Related Expectation Regions in Female Patients with Severe Knee Osteoarthritis.	Journal of Pain Research, 2020;2;13:3227-34	Original Article
200	Matsumoto K, Hoshino M, Omori K, Igarashi H, Matsuzaki H, Tokuhashi Y.	整形外科	Preoperative scoring system for predicting early adjacent vertebral fractures after Balloon Kyphoplasty	Journal of Orthopaedic Science, 2021;26(4):538-542.	Original Article
201	Kuwana. T	救命救急センター	Successful de-escalation antibiotic therapy using cephamycins for sepsis caused by extended-spectrum beta-lactamase-producing Enterobacteriaceae bacteremia: A sequential 25-case series	Open Medicine, 15(1), 782-786. 2020	Case report

202	Sawada.N	救命救急センター	Moraxella lacunata infection accompanied by acute glomerulonephritis	Open Medicine, 15(1), 962-967. 2020	Case report
203	Sakurai. A	救命救急センター	Parameters Influencing Brain Oxygen Measurement by Regional Oxygen Saturation in Postcardiac Arrest Patients with Targeted Temperature Management	Therapeutic Hypothermia and Temperature Management, 10(1), 71-75. 2020	Original Article
204	Takashi Maruyama , Hiroyuki Takashima , Masanori Abe	腎臓・高血圧・内分泌内科	Blood pressure targets and pharmacotherapy for hypertensive patients on hemodialysis	Expert Opin Pharmacother . 2020 Jul;21(10):1219-1240.	Original Article
205	Lan Chen , Noboru Fukuda , Taro Matsumoto , et al	腎臓・高血圧・内分泌内科	Role of complement 3 in the pathogenesis of hypertension	Hypertens Res . 2020 Apr;43(4):255-262. doi: 10.1038/s41440-019-0371-y.	Original Article
206	Yusuke Murata , Takahiro Ueno , Sho Tanaka, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Identification of Clock Genes Related to Hypertension in Kidney From Spontaneously Hypertensive Rats	Am J Hypertens . 2020 Dec 31;33(12):1136-1145. doi: 10.1093/ajh/hpaa123.	Original Article
207	Sho Tanaka, Masahiro Takubo, Genta Kohno, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Inverse Correlation Between Grip Strength and Serum Phosphorus: A Retrospective Observational Study in Japanese Elderly with Poorly Controlled Type 2 Diabetes	Geriatrics (Basel) . 2020 May 19;5(2):33. doi: 10.3390/geriatrics5020033.	Original Article
208	Sho Tanaka, Midori Fujishiro, Kentaro Watanabe, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Effect of Adult Weight Gain on Non-Alcoholic Fatty Liver Disease and Its Association with Anthropometric Parameters in the Lean Japanese Population	Diagnostics (Basel) . 2020 Oct 23;10(11):863. doi: 10.3390/diagnostics10110863.	Original Article

209	Hiroki Kobayashi, Yoshihiro Nakamura, Masanori Abe, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Effect of cosyntropin during adrenal venous sampling on subtype of primary aldosteronism: analysis of surgical outcome	Eur J Endocrinol . 2020 Mar;182(3):265-273. doi: 10.1530/EJE-19-0860.	Original Article
210	Hiroki Kobayashi, Yoshihiro Nakamura, Masanori Abe, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Effect of cosyntropin during adrenal venous sampling on subtype of primary aldosteronism: analysis of surgical outcome	Eur J Endocrinol . 2020 Mar;182(3):265-273. doi: 10.1530/EJE-19-0860.	Original Article
211	Satoshi Shimizu, Ritsukou Tei, Masahiro Okamura, et al.	腎臓・高血圧・内分泌内科	Prevalence of Zinc Deficiency in Japanese Patients on Peritoneal Dialysis: Comparative Study in Patients on Hemodialysis	Nutrients . 2020 Mar 14;12(3):764. doi: 10.3390/nu12030764.	Original Article
212	Sumi K	脳神経外科	Massive intracranial hemorrhage caused by intraventricular meningioma: case report.	BMC Neurol. 2021 Jan	Case report
213	Sumi K	脳神経外科	Venous hypertension caused by a meningioma involving the sigmoid sinus: case report	BMC Neurol. 2021 Mar	Case report
214	Moro N	脳神経外科	Massive efflux of adenosine triphosphate into the extracellular space immediately after experimental traumatic brain injury	Exp Ther Med. 2021 Jun	Original Article
215	Kumagawa T	脳神経外科	Recanalization by mechanical thrombectomy for cerebral infarction due to brachiocephalic artery occlusion ; case report	Interdisciplinarily Neurosurgery:Advanced techniques and case management 2021 Sep	Case report

216	Otani N	脳神経外科	Emergency STA-MCA bypass surgery for symptomatic progressive ischemic stroke	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 2021	Others
217	Katsuhara T	脳神経外科	Novel threading device for central dural tenting sutures: technical note	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 2021	Original Article
218	Tatsuoka J	脳神経外科	"High-dose-infliximab-associated Cerebral Venous Sinus Thrombosis: A Case Report and Review of the Literature."	Intern Med. 2021 Aug	Case report
219	Yamamuro S	脳神経外科	Treatment-responsive case of focal clivus IgG4-related hypertrophic pachymeningitis mimicking meningioma; case report.	Acta Neurol Belg 2021 Oct	Case report
220	Yamamuro S	脳神経外科	Erroneous resection of a cerebellar infarction - lesson learned.	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 2021	Case report
221	Yamamuro S	脳神経外科	Investigation of factors that contribute to the outcome of endoscopic transsphenoidal surgery as reviewed from our own cases.	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 2021	Case report
222	Yamamuro S	脳神経外科	Lomustine and nimustine exert efficient antitumor effects against glioblastoma models with acquired temozolomide resistance.	Cancer Science 2021	Original Article
223	Igarashi T	脳神経外科	Continuous glibenclamide prevents hemorrhagic transformation in a rodent model of severe ischemia-reperfusion.	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases 2021	Original Article

224	Miura K	血液・腫瘍内科	Consolidation with 90Yttrium-ibritumomab tiuxetan after bendamustine and rituximab for relapsed follicular lymphoma.	Hematologic Oncology. 2021 Feb; 39 (1): 51-9.	Original Article
225	Hatta Y	血液・腫瘍内科	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018	International Journal of Hematology. 2020 Oct; 112 (4): 439-58.	Others
226	Yokoe I, Kobayashi H, Kobayashi Y,	リウマチ・膠原病内科	Impact of biological treatment on left ventricular dysfunction determined by global circumferential, longitudinal and radial strain values using cardiac magnetic resonance imaging in patients with rheumatoid arthritis.	International journal of rheumatic diseases 2020 Oct; 23(10): 1363-71.	Original Article
227	Kitamura N, Hamaguchi M, Nishihara M	リウマチ・膠原病内科	The effects of mepolizumab on peripheral circulation and neurological symptoms in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA) patients.	Allergology international. 2021 Jan;70(1):148-9.	Letter
228	Kitamura N, Kobayashi H, Takei M,	リウマチ・膠原病内科	Unique cardiac magnetic resonance imaging findings of progressing myocardial damage in a patient with polymyositis.	Archives of rheumatology. 2020 Dec;36(2): 314-5	Case report
229	Reina Hoshi, Shuichiro Uehara, Makoto Hashimoto, et al	小児外科	Diagnosis and management of genital injuries in girls: 14-year experience.	Pediatrics International, 2020	Original Article

230	Fujita H, Ohtsuki M, Morita A, et al.	皮膚科	Safety and effectiveness of secukinumab in psoriasis vulgaris and psoriatic arthritis: Real-world evidence in Japan.	Journal of Dermatology 2021; 48(2): 175-183.	Original Article
231	Endo T, Toyoshima S, Hayama K, et al.	皮膚科	Relationship between changes in the 7-day urticaria activity score after treatment with omalizumab and the responsiveness of basophils to Fc ϵ RI stimulation in patients with chronic spontaneous urticaria.	Asia Pacific Allergy 2020; 10(2): e12.	Original Article
232	Hayama K, Fujita H, Fujimaki M, et al.	皮膚科	Rapid recurrence of dermatofibrosarcoma protuberans after initiation of adalimumab therapy in a patient with ankylosing spondylitis.	Journal of Dermatology 2020; 47(6): e244-e246.	Case report
233	Nishimura-Tagui M, Hayama K, Fujita H, et al.	皮膚科	Case of anaphylaxis due to lotus root.	Journal of Dermatology 2020; 47(7): 743-748.	Case report
234	Nishimori N, Hayama K, Kimura K, et al.	皮膚科	A Novel NCSTN Gene Mutation in a Japanese Family with Hidradenitis Suppurativa.	Acta Dermato-Venereologica 2020; 100(17): adv00283.	Case report
235	Hayama K, Fujita H, Asai-Sato M, et al.	皮膚科	Successful treatment of intractable chronic spontaneous urticaria with omalizumab in a patient with ovarian cancer.	European Journal of Dermatology 2021; 31(1): 100-101.	Case report
236	Hayama K, Fujita H, Iwatsuki K, et al.	皮膚科	Improved quality of life of patients with generalized pustular psoriasis in Japan: A cross-sectional survey.	Journal of Dermatology 2021; 48(2): 203-206.	Original Article
237	Ikumi N, Fujita H, Terui T.	皮膚科	Guselkumab improves joint pain in patients with pustulotic arthro-osteitis: A retrospective pilot study.	Journal of Dermatology 2021; 48(2): 199-202.	Letter

238	Izaki S, Hayama K, Fujita H.	皮膚科	A case of contact dermatitis due to dental surface anaesthetic.	Contact Dermatitis 2021; 84(3): 210-212.	Case report

計238件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	長崎敬仁、樫村勉、副島一孝	形成外科	有機溶剤中毒に合併受傷した化学損傷の治療経験	熱傷 (47巻1号, 2021.3)	Case report
2	樫村勉、日台智明、仲沢弘明	形成外科	線維増殖性疾患に対する第9凝固因子由来上皮成長因子の影響に関する検討	癬痕・ケロイド治療ジャーナル (14号, 2020.9)	Original Article
3	樫村勉、副島一孝	形成外科	顔面骨骨折の低侵襲治療	日大医学雑誌 (79巻3号, 2020.6)	Others
4	樫村勉、副島一孝	形成外科	【最新 救急医療機器総覧 2020】デジタルマイクロスコープ	救急医学 (44巻7号, 2020.6)	Others
5	吉田直、山崎慎太郎	消化器外科	【肝細胞癌に対する薬物療法の進歩】分子標的治療薬のコンバージョンにおける外科切除の実際(解説/特集)	肝臓クリニカルアップデート (2189-4469)6巻1号 Page49-53 (2020.05)	Review
6	権寧博、神津悠、山田志保、他	呼吸器内科	喘息診療の変遷 定義、病態、管理目標; Overview: これまでの標準的診療の変遷、喘息とCOPD.	内科, 2020.6; 125(6):1289~1292.	Review

7	林 健太郎	呼吸器内科	新型コロナウイルス感染症の臨床.	日大医学雑誌 79巻6号 : 317-324, 2020.	Review
8	権 寧博	呼吸器内科	プライマリケアにおける喘息と合併症の管理	日本医事新報社, 2020. 7. 10.	Others
9	権 寧博	呼吸器内科	2 慢性細気管支炎・3 気管支拡張症; 第二章 呼吸器疾患	新臨床内科学第10版, 医学書院, 130-134, 2020. 3. 25	Others
10	神津 悠, 権 寧博	呼吸器内科	COPD (薬物療法) ; 2. 閉塞性肺疾患	最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患診療指針2021-22, 総合医学社, 96-103. 2020. 11. 30	Others
11	神津 悠	呼吸器内科	特集 「今日からの診療に役立つアレルギー疾患の診断・治療の最新情報」 アナフィラキシーの診断・治療の最新情報	日大医学雑誌 2020年4月 79巻2号 p. 65-69	Others
12	神津 悠	呼吸器内科	特集「耳鼻咽喉科医が知っておくべき睡眠学」 肥満低換気症候群への対応	JOHNS 2020年7月36巻7号 p. 857-860	Others
13	神津 悠	呼吸器内科	特集 「日常で診療で役立つ睡眠の知識」 睡眠関連呼吸障害	日大医学雑誌 2020年12月	Others
14	前田英明, 賀嶋俊隆, 西田博, 他	心臓血管外科	第8章 心・脈管 1. 心, 心膜, 肺動静脈, 冠血管等 2. 動脈 3. 静脈	手術術式の完全解説. 2020-21年版. 2020 June;259-315	Others
15	河内秀臣, 松本太郎, 風間智彦, 他	心臓血管外科	ブタ下肢虚血モデルに対する脱分化脂肪細胞自家移植の効果	日大医学雑誌. 2020 June;79(3) : 133-143	Original Article
16	瀬在明	心臓血管外科	特集「心不全」序文	日大医学雑誌. 2020 Aug;79(4) : 197	Others
17	瀬在明, 田中正史, 奥村恭男	心臓血管外科	重症心不全に対する補助人工心臓治療	日大医学雑誌. 2020 Aug;79(4) : 225-229	Review
18	瀬在明, 高山忠輝	心臓血管外科	心不全パンデミックに向けての心不全地域連携における大学病院の役割	日大医学雑誌. 2020 Aug;79(4) : 241-245	Review
19	瀬在明, 田中正史, 本村禎	心臓血管外科	EVIジャパンとの植込型補助人工心臓の共同研究	日大医学雑誌. 2020 Aug;79(4) : 247	Others
20	有本宗仁, 尾花正裕, 嶋田直洋, 他	心臓血管外科	超高齢者弓部大動脈切迫破裂に対し2枝 Debranch TEVARを施行した1例	日大医学雑誌. 2020 Oct;79(5) : 293-297	Case report

21	前田英明	心臓血管外科	巻頭言 血管外科医の すすむべき道	血管外科. 2020 Nov;39(1) : i-ii	Others
22	瀬在明	心臓血管外科	循環器疾患患者におけ る睡眠呼吸障害	日大医学雑誌. 2020 Dec;79(6) : 357-360	Review
23	鈴木正泰	精神神経科	睡眠操作による気分障 害治療	日本臨床, 78: 811-815, 2020.	Review
24	中島英, 鈴木 正泰	精神神経科	不眠症の診断と治療	診断と治療, 49: 1589- 1592, 2020.	Review
25	木附隼, 鈴木 正泰	精神神経科	睡眠操作による気分障 害治療	日本臨床 増刊号 最新臨床 睡眠学 (第2版), pp. 683- 688, 日本臨床社, 東京, 2020	Review
26	横瀬宏美, 鈴 木正泰, 内山 真	精神神経科	慢性疲労症候群の睡眠	日本臨床 増刊号 最新臨床 睡眠学 (第2版), pp. 765- 770, 日本臨床社, 東京, 2020	Review
27	中嶋 秀人	脳神経内科	急性脳炎診療の進め方 とポイント	神経治療学(0916-8443)37 巻3号 Page265- 267(2020.05)	Original Article
28	亀井 聡	脳神経内科	未来へつなぐ神経治療 学 自己免疫性脳炎の 発展	神経治療学(0916-8443)37 巻3号 Page225- 231(2020.05)	Review
29	森田 昭彦	脳神経内科	ヘルペスウイルスと中 枢神経感染症 単純ヘ ルペス脳炎の診断と治 療	NEUROINFECTION(1348- 2718)25巻1号 Page35- 38(2020.05)	Review
30	中嶋 秀人	脳神経内科	【COVID-19-脳神経内 科医が診るための最新 知識】COVID-19神経合 併症 脳炎・脳症	BRAIN and NERVE: 神経研 究の進歩(1881-6096)72巻 10号 Page1031- 1037(2020.10)	Review
31	中嶋秀人	脳神経内科	【脳の感染症-脳炎と 寄生虫】細菌性脳炎 細菌性髄膜炎	Clinical Neuroscience(0289- 0585)38巻10号 Page1226- 1230(2020.10)	Review
32	原誠, 中嶋秀 人	脳神経内科	【神経免疫疾患の新知 見】自己免疫性脳炎の 臨床における最近の動 向	臨床免疫・アレルギー科 (1881-1930)74巻4号 Page364-372(2020.10)	Review
33	中嶋 秀人	脳神経内科	神経感染症と神経難病 の克服を目指して	日大医学雑誌(0029- 0424)79巻3号 Page153- 160(2020.06)	Review
34	森田 昭彦, 亀 井聡	脳神経内科	各種疾患 感染・炎症 疾患 インフルエンザ 脳症成人例の臨床像	Annual Review神経2020巻 Page137-141(2020.04)	Original Article
35	中嶋秀人, 亀 井聡	脳神経内科	【性感染症(STD)と神 経障害】性器ヘルペス 感染と神経合併症	脳神経内科(2434-3285)92 巻5号 Page538- 544(2020.05)	Review
36	小川克彦	脳神経内科	【「もの忘れ」の科 学;基礎と臨床】いわ ゆる健忘症候群と認知 症 一過性全健忘症の 病理背景と認知症との 関連	老年精神医学雑誌(0915- 6305)31巻2号 Page172- 178(2020.02)	Review

37	石本真一郎、櫻井裕幸、林宗平、他	呼吸器外科	気胸手術を契機に診断したBirt-Hogg-Dube症候群の3例	胸部外科. 2020 Aug;73(8):636-639.	Case report
38	坂田省三、櫻井裕幸、河内利賢、他	呼吸器外科	特発性血気胸に対する緊急手術例の検討	日本呼吸器外科学会雑誌. 34巻4号; 200-204	Original Article
39	坂田省三、櫻井裕幸、河内利賢、他	呼吸器外科	特発性血気胸手術後に発症した体側気胸の一例	胸部外科. 2020 Nov;73(12):1049-1051.	Case report
40	林宗平、河内利賢、佐藤大輔、他	呼吸器外科	後縦隔に発生し、神経原性腫瘍と鑑別が困難であった気管支原性嚢胞の1例	気管支学42巻4号; 327-330	Case report
41	林宗平、河内利賢、佐藤大輔、他	呼吸器外科	成熟成分のごく一部に未熟成分が混在していた縦隔奇形腫	肺癌60巻3号; 212-213	Case report
42	浦上達彦, 内潟安子, 檜崎晃史, 南昌江, 小川洋平, 菊池信行, 中村慶子, 坂本辰蔵	小児科	1型糖尿病における移行期医療の現状に関するアンケート調査-1型糖尿病移行期医療合同委員会報告.	糖尿病 63 (11) : 776-783, 2020	Original Article
43	望月美恵, 武者育麻, 小林浩司, 鈴木滋, 小林基章, 菊池信行, 横田一郎, 川村智行, 浦上達彦, 菊池透, 杉原茂孝, 佐々木望, 松浦信夫, 星野忠夫, 雨宮伸	小児科	ヘモグロビンA1cとグリコアルブミンの実臨床検体による精度管理と課題-小児インスリン治療研究会報告.	糖尿病63 (11) : 733-739, 2020	Original Article
44	佐藤茉莉子, 長野伸彦, 今泉隆行, 秋本卓哉, 青木亮二, 土方みどり, 不破一将, 香山一憲, 清宮綾子, 加藤亮太, 岡橋彩, 森岡一郎	小児科	生殖補助医療を受けて出生した新生児の周産期予後: 単施設における検討.	小児科臨床 73 (10) : 1421-1425, 2020	Original Article

45	水野克己, 日下隆, 河井昌彦, 荒堀仁美, 大西聡, 高柳俊光, 東海林宏道, 長屋建, 長谷川久弥, 松本敦, 宮沢篤生, 森岡一朗, 山田恭聖, 和田友香, 高橋尚人, 和田和子, 早川昌弘	小児科	2019 年度研修開始専攻医プログラムに関するアンケート調査.	日本小児科学会雑誌 124 (4) : 806-809, 2020	Original Article
46	松田健剛, 長野伸彦, 秋本卓哉, 土方みどり, 清宮綾子, 加藤亮太, 岡橋彩, 中山貴裕, 小松篤史, 川名敬, 森岡一朗	小児科	ジドブシンとネビラピンの多剤併用療法を含む母子感染予防策により予防できた無治療のヒト免疫不全ウイルス感染母体から出生した新生児の1例.	日本周産期新生児医学会雑誌56 (3) : 457-462, 2020	Case report
47	金澤剛二, 谷ヶ崎博, 平井麻衣子, 渡邊直樹, 渡辺嘉久, 陳基明, 森岡一朗	小児科	輸血後のアナフィラキシーショックを契機に発見された先天性ハプログロビン欠損症の小児例.	日本小児血液・がん学会雑誌 57 (3) : 314-317, 2020	Case report
48	中崎公隆, 清水翔一, 諸橋環, 河村研吾, 高橋昌里, 森岡一朗	小児科	著明な片側腎機能低下を認めたが腎瘻設置で腎摘を回避できた水腎症の1例.	日本小児腎臓病学会雑誌 33 (2) : 163-167, 2020	Case report
49	清水翔一, 諸橋環, 高橋昌里, 森岡一朗	小児科	学校検尿を契機に発見された Tubulointerstitial nephritis and uveitis syndrome の1例.	日本小児腎不全学会雑誌 40 : 206-209, 2020	Case report
50	山瀬聡一, 窪田園子, 瀧上達夫, 川口忠恭, 木村かほり, 桃木恵美子, 高橋桃子, 藤田之彦, 森岡一朗	小児科	発達特性に配慮した対応で改善した機能性嚥下障害の一例.	子どもの心とからだ 29 (3) : 305-307, 2020	Case report
51	川口忠恭, 謝花幸祐, 岡本奈美, 稲毛康司	小児科	大量免疫グロブリン静注療法が有効であったステロイド薬抵抗性 Mi-2 抗体陽性若年性皮膚筋炎の2症例.	小児リウマチ 11 (1) : 30-35, 2020	Case report

52	西村光司, 金澤剛二, 森岡一朗, 林昌宏, 田島茂, 前木孝之, 中山絵里, 谷口怜, 西條政幸	小児科	5年ぶりに確認された日本国内で感染した Dengue 熱の3例.	病原微生物検出情報 (IASR) 41 : 94-96, 2020	Case report
53	片山大地, 長野伸彦, 青木亮二, 土方みどり, 不破一将, 香山一憲, 清宮綾子, 加藤亮太, 小森暁子, 岡橋彩, 吉川香代, 諸橋環, 高橋滋, 森岡一朗	小児科	パリビズマブの初回投与前に発症し入院加療を要したRSウイルス感染症の早産児の2例.	小児科臨床 73 (1) : 49-54, 2020	Case report
54	野崎千央, 鮎沢衛, 不破一将, 大島正成, 飯田亜希子, 加藤雅崇, 小森暁子, 中村隆広, 森岡一朗	小児科	咽後膿瘍の鑑別を要した不全型川崎病 自験例およびCT所見報告例からの考察.	小児科臨床 73 (4) : 477-481, 2020	Case report
55	石井大裕, 春日悠岐, 桃木恵美子, 川口忠恭, 石井和嘉子, 福田あゆみ, 澤田奈美, 瀧上達夫, 藤田之彦, 森岡一朗	小児科	髄液迅速抗原検査でインフルエンザ菌b型が偽陽性となった肺炎球菌髄膜炎の乳児例.	日大医学雑誌 79 (3) : 145-148, 2020	Case report
56	泉裕之, 弓倉整, 宮下理夫, 大國真一, 北角博道, 弘瀬哲, 上原章, 石岡建, 鮎沢衛	小児科	令和元年度板橋区学童心臓検診についての報告,	板橋区医師会医学会誌25: 234, 2020	Case report
57	森岡一朗, 長野伸彦, 岩谷壮太	小児科	早産児ビリルビン脳症の発症予防のための研究と体外診断医療機器開発.	日本新生児成育医学会雑誌 32 (2) : 21-24, 2020	Review
58	森岡一朗, 春日悠岐, 西村光司	小児科	小児の新型コロナウイルス感染症: 第一波を振り返る.	小児保健研究 79 (6) : 542-544, 2020	Review

59	森岡一朗, 岡橋 彩, 長野 伸彦	小児科	症候生先天性サイトメガロウイルス感染症に対する抗ウイルス薬「バルガンシクロビル」の医師主導治験を日本大学医学部附属板橋病院で開始.	日大医学雑誌 79 (3) : 171-173, 2020	Review
60	森岡一朗	小児科	新型コロナウイルス感染症と新生児.	東京小児科医会報39 (2) : 1, 2020	Review
61	森岡一朗, 長野 伸彦, 桃木 恵美子, 岡橋 彩	小児科	GOD-POD-UnaG法を用いた血中アンバウンドビリルビン自動測定機器の開発.	日本大学医学部総合医学研究所紀要 8 : 27-30, 2020	Review
62	三浦 大, 鮎澤 衛, 伊藤 秀一, 池田俊也, 金井貴志, 小林 徹, 鈴木啓之, 濱田洋通, 深澤隆治, 山村健一郎, 宮田功一, 横山詩子, 市田蒔子, 寺井 勝, 三谷義英	小児科	日本小児循環器学会川崎病急性期治療のガイドライン (2020年改訂版)	Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery 36 (S1) : S1.1-1.29, 2020	Review
63	浦上達彦	小児科	編集委員会への手紙 「学校検尿での尿糖陽性緊急受診システムの現状」	日本小児科学会雑誌 124 : 1553-1554, 2020	Review
64	原 光彦, 原 正美, 上野佳代子, 板倉弘重, 伊藤節子, 齊藤恵美子, 下条直樹, 高増哲也, 長谷川美穂, 岡田知雄	小児科	小児の食物アレルギー予防医学の観点から.	日本臨床栄養学会雑誌42 (1) : 94-107, 2020	Review
65	橋本光司	小児科	小児気管支喘息治療・管理の最近の話題.	日大医学雑誌 79 (2) : 71-76, 2020	Review
66	岩間元子	小児科	食物アレルギーの予防・診断・治療～食物アレルギー診療ガイドラインより～	日大医学雑誌 79 (2) : 81-86, 2020	Review
67	森岡一朗	小児科	リレー随想 新生児領域の臨床研究に邁進してきて.	小児科臨床 73 (11) : 1516-1519, 2020	Review

68	森岡一朗	小児科	周産期の薬 新生児編 【疾患に対する薬剤の 選び方・使い方・注 意】感染症 インフル エンザ.	周産期医学 50 (増大 号) : 524-525, 2020	Review
69	森岡一朗	小児科	周産期の薬 新生児編 【疾患に対する薬剤の 選び方・使い方・注 意】感染症 サイトメ ガロウイルス.	周産期医学 50 (増大 号) : 519-523, 2020	Review
70	森岡一朗	小児科	目で見える胎児・新生児 の病態 慢性ビリルビ ン脳症.	Fetal & Neonatal Medicine 11 (1) : 5-6, 2020	Review
71	森岡一朗, 土方みどり, 岡橋 彩	小児科	【NICU卒業生の予後と 診療のポイント】先 天性感染症 サイトメ ガロウイルス.	小児科診療 83 (9) : 1203- 1209, 2020	Review
72	森岡一朗, 山 田秀人	小児科	【産婦人科医に最低限 必要な正期産新生児管 理の最新知識 (II) - 母体合併症の影響は? 新生児スクリーニング はどうする?】母体 合併症 母体サイトメ ガロウイルス陽性児の 取り扱い	臨床婦人科産科 74 (9) : 891-897, 2020	Review
73	森内優子, 森 岡一朗	小児科	【母子感染症の必修知 識-エキスパートに学 び予防につなげる】 先天性トキソプラズマ 感染.	小児内科 52 (1) : 71-74, 2020	Review
74	清宮綾子, 長 野伸彦	小児科	【知っておきたい周産 期にかかわる法律・制 度】予防接種法.	周産期医学 50 (1) : 108- 111, 2020	Review
75	清宮綾子, 森 岡一朗	小児科	【【必携】専攻医と 指導医のための新生児 診療到達目標】母子垂 直感染症.	周産期医学50 (4増大 号) : 664-666, 2020	Review
76	長野伸彦	小児科	【パーフェクト版新生 児のフィジカルアセス メント正期産児から Late preterm児, 早産 児まで】一見, 無症 候性の低血糖.	with NEO秋季増刊 : 334- 340, 2020	Review
77	森岡一朗	小児科	【チャートで極める! 母体疾患別 新生児の 病態生理とケア 家族 説明シートつき】母 体トキソプラズマ・サ イトメガロウイルス感 染の母親と児、	with NEO 33 (3) : 374- 382, 2020	Review

78	峯 佑介, 長野伸彦, 浦上達彦	小児科	【チャートで極める! 母体疾患別 新生児の病態生理とケア 家族説明シートつき】 甲状腺機能異常の母親と児.	with NEO 33 (3) : 329-338, 2020	Review
79	中原衣里菜, 谷ヶ崎 博	小児科	思春期の貧血の診かた.	小児科61 (11) : 1489-1496, 2020	Review
80	神保詩乃, 鮎澤 衛	小児科	【研究医必携! 心電図判読のコツ】 心電図の見かた 軸偏位.	小児科診療 83 (5) : 577-580, 2020	Review
81	鮎澤 衛	小児科	【研修医必携! 心電図判読のコツ】 心電図の見かた ST-Tの異常.	小児科診療 83 (5) : 581-586, 2020	Review
82	鮎澤 衛	小児科	【川崎病-原因究明・診断・管理の進歩】 診断基準 川崎病診断の手引き 改訂6版について.	小児科 61 (7) : 953-962, 2020	Review
83	鮎澤 衛	小児科	ガイドラインUpdate 川崎病診断の手引き (改訂第6版) 17年ぶりの改訂でどこがどう変わったか.	小児科臨床 73 (2) : 253-257, 2020	Review
84	鮎澤 衛	小児科	【知っていますか? 小児科領域のスポーツ障害】 急性スポーツ障害 運動中の突然死.	小児科診療 83 (2) : 169-176, 2020	Review
85	鮎澤 衛	小児科	川崎病の診断: 歴史と新しい手引き改訂6版.	カレントセラピー 38 (10) : 33-40, 2020	Review
86	鮎澤 衛	小児科	各科臨床のトピックス: 川崎病診断の手引き 改訂6版.	日本医師会雑誌 149 (7) : 1252-1254, 2020	Review
87	鮎澤 衛	小児科	【COVID-19と小児医療 (Part 1)】 COVID-19と川崎病との関係について.	東京小児科医会報 39 (2) : 28-33, 2020	Review
88	清水翔一, 高橋昌里	小児科	【症候・疾患からみる小児の検査】 症候からみる臨床検査の進めかた 蛋白尿 (血尿を伴わない) .	小児科診療 83 (増刊) : 142-147, 2020	Review

89	諸橋 環	小児科	【高血圧学 下-高血圧制圧の現状と展望-】 高血圧診療のトピックス ライフステージを超えた高血圧発症機序 小児期の血圧と成人期の高血圧の関連.	日本臨牀78 (増刊号) : 417-420, 2020	Review
90	浦上達彦	小児科	慢性疾患と不登校—小児糖尿病を中心に.	小児内科 52 : 809-812, 2020	Review
91	浦上達彦, 三浦順之介	小児科	学会レポート 第19回日本先進糖尿病研究会・第17回日本1型糖尿病研究会の合同年次学術集会を開催して.	糖尿病の最新治療 11 : 96-97, 2020	Review
92	吉田 圭, 浦上達彦	小児科	研修医のためのクリニック—自覚性機能性卵巣嚢腫の1例.	小児内科 52 : 305-306, 2020	Review
93	江口絢子, 浦上達彦	小児科	研修医のためのクリニック—SGA性低身長症.	小児内科52 : 1001-1002, 2020	Review
94	吉田 圭	小児科	あなたの質問にお答えします アジソン病について教えてください.	健 2020年3月号 76-77, 2020	Review
95	吉田 圭	小児科	こんなときどうする?! 救急対応の疑問・迷いを専門医に聞いてみました ①-45の救急実例.	健 2020年9月号 44-49, 2020	Review
96	小川えりか, 高野智圭, 石毛美夏, 瀧上達夫	小児科	研修医のためのクリニック—症例: 1歳7か月 男児, 主訴: せんべいを食べたら歯が折れた.	小児内科 52 (10) : 1309-1310, 2020	Review
97	石毛美夏	小児科	先天代謝異常症 フェニルケトン尿症.	小児科臨床 73 (4) : 667-671, 2020	Review
98	石毛美夏	小児科	先天性代謝疾患 (タンデムマス・スクリーニング) .	周産期医学 50 (4) : 547-549, 2020	Review
99	石毛美夏	小児科	【ローリスク妊婦, ローリスク新生児のケア】 退院後 先天性代謝異常症等検査で異常値がでたときの対応.	周産期医学50 (12) : 2045-2048, 2020	Review

100	石毛美夏	小児科	周産期の薬 新生児編【疾患に対する薬剤の選び方・使い方・注意点】内分泌・代謝疾患フェニルケトン尿症(高フェニルアラニン血症)。	周産期医学50(増刊号): 678-680, 2020	Review
101	石毛美夏	小児科	周産期の薬 新生児編【基本的薬剤の選び方・使い方・注意点】輸液・栄養製剤 治療用ミルク。	周産期医学 50(増刊号): 442-445, 2020	Review
102	原 光彦	小児科	幼児肥満のポイント。	小児科臨床 73(1): 113-117, 2020	Review
103	原 光彦	小児科	スポーツ心臓。	小児科診療 83(2): 191-193, 2020	Review
104	原 光彦, 加藤理津子, 江川賢一	小児科	運動と発育。	臨床スポーツ医学37(5): 526-530, 2020	Review
105	原 光彦, 斉藤恵美子, 阿部百合子	小児科	児童・生徒における肥満・痩身傾向児の割合。	小児内科52(5): 680-682, 2020	Review
106	原 光彦, 斉藤恵美子, 西村美帆子	小児科	食と肥満。	チャイルドヘルス 23(8): 567-570, 2020	Review
107	原 光彦	小児科	「幼児肥満ガイド」をどう読むか。	小児科61(6): 896-902, 2020	Review
108	原 光彦	小児科	「神戸宣言2018」に基づく日本小児科学会の取り組み。	肥満研究26(2): 281, 2020	Review
109	原 光彦	小児科	小児肥満症診療ガイドライン策定と肥満症対策。	肥満研究26(3): 328-331, 2020	Review
110	原 光彦	小児科	脂質異常症が疑われるとき。	小児科診療 83(suppl): 373-378, 2020	Review
111	森岡一朗	小児科	新生児疾患 新生児の黄疸。	今日の診断指針第8版(永井良三総編集). p. 1822-1825, 医学書院, 東京, 2020	Others
112	森岡一朗	小児科	感染症 先天性トキソプラズマ症。	今日の小児治療指針 第17版(水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘, 伊藤秀一総編集). p. 371-372, 医学書院, 東京, 2020	Others
113	浦上達彦	小児科	代謝性疾患, 栄養障害 1型糖尿病。	今日の小児治療指針 第17版(水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘, 伊藤秀一総編集). p. 250, 医学書院, 東京, 2020	Others

114	石毛美夏	小児科	先天代謝異常 果糖（フルクトース）代謝異常症.	今日の小児治療指針 第17版（水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘, 伊藤秀一総編集）. p.184-185, 医学書院, 東京, 2020	Others
115	谷ヶ崎 博	小児科	血液疾患 先天性溶血性貧血.	今日の治療指針 2020年版-私はこう治療している（福井次矢, 高木 誠, 小室一成総編集）. p.676-677, 医学書院, 東京, 2020	Others
116	鮎澤 衛, 小林 徹, 鈴木啓之, 高橋啓	小児科	川崎病診断の手引きガイドブック（日本川崎病学会編集/監修.	診断と治療社, 東京, 2020	Others
117	浦上達彦	小児科	リアルタイムCGMによる情報共有の有用性.	いま読んでおきたい! 血糖データの活かし方（小出景子, 渥美義仁編集）. p.189-192, 南山堂, 東京, 2020	Others
118	浦上達彦	小児科	子どもの糖尿病はどのように治療するのか?	患者さんとその家族のための糖尿病治療の手びき 2020 改訂58版（日本糖尿病学会編著）. p.113-118, 日本糖尿病協会・南江堂, 東京, 2020.	Others
119	鈴木潤一, 浦上達彦	小児科	ケトosis・ケトアシドーシスへの対応.	インスリンポンプ治療マニュアル改訂第3版 CSII療法・CGM・SAP療法導入・管理の手引き（小林哲郎, 難波光義編）. p.199-202, 南江堂, 東京, 2020	Others
120	阿部百合子, 浦上達彦	小児科	乳糖分解酵素障害症（乳糖不耐症）.	新臨床内科学 第10版（矢崎義雄監修）. p.759, 医学書院, 東京, 2020	Others
121	阿部百合子, 浦上達彦	小児科	周期性嘔吐症（アセトン血性嘔吐症）.	新臨床内科学 第10版（矢崎義雄監修）. p.759-760, 医学書院, 東京, 2020	Others
122	鈴木潤一	小児科	身体診察に必要な成長評価	身長・体重, 頭囲, 胸囲. 症候から入る小児の身体診察（稲毛康司編集）. p.28-31, 文光堂, 東京, 2020	Others
123	鈴木潤一	小児科	身体診察に必要な成長評価	二次性徴. 症候から入る小児の身体診察（稲毛康司編集）. p.32-34, 文光堂, 東京, 2020	Others
124	原 光彦	小児科	栄養評価.	症候から入る小児の身体診察（稲毛康司編集）. p.17-20, 文光堂, 東京, 2020	Others
125	長野伸彦	小児科	一か月児 乳児.	症候から入る小児の身体診察（稲毛康司編集）. p.41-46, 文光堂, 東京, 2020	Others

126	福田あゆみ	小児科	疼痛の診察 頭痛.	症候から入る小児の身体診察 (稲毛康司編集). p. 66-68, 文光堂, 東京, 2020	Others
127	山田隆太郎, 淵上達夫	小児科	神経疾患 筋力低下 Duchenne型筋ジストロフィー症を題材に.	症候から入る小児の身体診察 (稲毛康司編集). p. 150-153, 文光堂, 東京, 2020	Others
128	桃木恵美子, 淵上達夫	小児科	神経疾患 歩行障害.	症候から入る小児の身体診察 (稲毛康司編集). p. 158-161, 文光堂, 東京, 2020	Others
129	春日悠岐, 淵上達夫	小児科	神経疾患 けいれん発作.	重積状態. 症候から入る小児の身体診察 (稲毛康司編集). p. 162-164, 文光堂, 東京, 2020	Others
130	春日悠岐, 淵上達夫	小児科	神経疾患 意識障害.	症候から入る小児の身体診察 (稲毛康司編集). p. 166-170, 文光堂, 東京, 2020	Others
131	不破一将, 森岡一朗	小児科	第8章将来に向けた研究 3. 高度生殖医療で出生した児の予後.	生殖と周産期のリエゾン (池田智明, 苛原 稔, 吉村泰典編集). p. 207-215, 診断と治療社, 東京, 2020	Others
132	平井麻衣子	小児科	がんの予防.	「新しい保健体育」教師用デジタルブック. p. 96-97, 日大出版, 東京, 2020	Others
133	小川えりか	小児科	パリン代謝異常症としてのECHS1異常症, HIBCH異常症.	ミトコンドリアと病気 (村山 圭, 小坂 仁, 三牧正和編集). p. 86-91, メディカルドゥ, 大阪, 2020	Others
134	原 光彦	小児科	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症.	特殊ミルク治療ガイドブック (日本小児医療保健協議会 (四者協) 治療用ミルク安定供給委員会編集). p. 103-104, 診断と治療社, 東京, 2020	Others
135	原 光彦	小児科	学童期, 思春期の生理的特徴.	応用栄養学 改定第6版 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所監修/渡邊令子, 伊藤節子, 瀧本秀美編集). p161-168, 南江堂, 東京, 2020	Others
136	原 光彦	小児科	成長期の栄養アセスメントと栄養ケア.	応用栄養学 改定第6版 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所監修/渡邊令子, 伊藤節子, 瀧本秀美編集). p169-181, 南江堂, 東京, 2020	Others

137	原 光彦	小児科	学童期, 思春期の食事摂取基準と学校給食.	応用栄養学 改定第6版 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所監修/渡邊令子, 伊藤節子, 瀧本秀美編集). p182-186, 南江堂, 東京, 2020	Others
138	中村一博	耳鼻咽喉・頭頸部外科	喉頭微細手術—基本手技から応用まで—	日耳鼻 123:1312~1316 2020	Review
139	中村一博	耳鼻咽喉・頭頸部外科	更年期後の女性で声が低くなったことに対して有効な治療はありますか?	JOHNS vol.36 No9 2020	Review
140	増田しのぶ	病理診断科	第1部 免疫組織化学のための病理部門運営 5. 免疫染色の精度管理	病理と臨床. 2020 Apr; 38: 臨時増刊号: 24-31	Others
141	稲原裕也	脳神経外科	慢性硬膜下血腫術後7日目の頭部CTによる再発の予見	神経外傷2021 44巻1号	Others
142	今村元	脳神経外科	小脳転移を来した下腿原発有棘細胞癌の1例	脳神経外科ジャーナル 30巻8号	Others
143	谷澤 元気	脳神経外科	当科における原発性中枢神経系悪性リンパ腫に対する新規化学療法レジメンR-MPV療法の導入経験.	日大医学雑誌	Others
144	西出 拓馬	脳神経外科	Novo-TTF 100Aシステムにより治療した膠芽腫の3症例.	日大医学雑誌	Others
145	五十嵐崇浩	脳神経外科	脳神経外科と Oncofertility : AYA世代脳腫瘍患者のがん・生殖医療について	小児の脳神経 (Nervous System in Children)	Others
146	小野賀功, 古屋武史, 星玲奈, 他	小児外科	空腸ポリープによる空腸空腸型小腸重積症の1例	日本小児外科学会雑誌. 2020 56(3), 291-6	Case report
147	村田美和, 車谷紋乃, 藤田英樹, 他	皮膚科	【間葉系腫瘍】免疫グロブリン遺伝子再構成検査で診断した原発性皮膚形質細胞腫の1例.	皮膚科の臨床 2020; 62(5): 573-577.	Case report
148	田杭真帆, 葉山惟大, 藤田英樹, 他	皮膚科	痔疾外用薬に含まれる複数の成分による接触皮膚炎症候群の1例.	皮膚科の臨床 2020; 62(7): 1071-1076.	Case report

149	丹羽悠介, 葉山惟大, 伊東真奈, 他	皮膚科	【小児のアレルギー性皮膚疾患 最近のトレンド】未成年の慢性特発性蕁麻疹に対するオマリズマブ治療 良好な治療効果を得た3例.	皮膚病診療 2020; 42(7): 580-583.	Case report
150	吉田杏子, 葉山惟大, 藤澤大輔, 他	皮膚科	若年性尋常性天疱瘡の1例.	皮膚科の臨床 2020; 62(9): 1327-133.	Case report
151	田杭真帆, 藤澤大輔, 藤田英樹, 他	皮膚科	ケラトアカントーマ様外観を呈した伝染性軟属腫の1例.	皮膚科の臨床 2020; 62(11): 1628-1629.	Case report
152	村田美和, 藤田英樹, 照井正	皮膚科	神経線維腫症I型患者に生じたエクリン汗孔癌の1例.	皮膚科の臨床 2020; 62(12): 1721-1725.	Case report
153	葉山惟大	皮膚科	慢性特発性蕁麻疹の診断・治療の最新情報.	日大医学雑誌 2020; 79(2): 93-97.	Review
154	葉山惟大	皮膚科	【付属器疾患 その疑問にお答えします!-ニキビから巻き爪まで Q&A50-】(第II章)脂腺(Q31)化膿性汗腺炎の診断と発症機序について教えてください.	皮膚科の臨床 2020; 62(6): 856-859.	Review
155	葉山惟大	皮膚科	【高齢者を含めた成人発症のアレルギー疾患の特徴】高齢者を含めた成人発症の蕁麻疹の特徴と治療法.	臨床免疫・アレルギー科 2020; 73(6): 632-636.	Review
156	葉山惟大	皮膚科	【皮疹はこう見る, こう表現する】よく見る皮膚疾患を発疹レベルで理解する 皮膚炎・蕁麻疹など 蕁麻疹.	Medicina 2020; 57(11): 1876-1877.	Review
157	葉山惟大, 井上里佳, 大槻マミ太郎, 他	皮膚科	化膿性汗腺炎診療の手引き2020.	日本皮膚科学会雑誌 2021; 131(1): 1-28.	Others

計157件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 (1) 臨床研究倫理審査委員会標準業務手順書 (2) 人を対象とする医学研究に関する標準業務手順書 (3) 人を対象とする医学研究における重篤な有害事象の取扱いに関する標準業務手順書 (4) 人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 日本大学利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 臨床研究倫理審査委員会委員講習 (2回)	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を事項するため、医学部の学系・分野と協力しながら、専門医取得のための後期臨床研修プログラムを各診療科で作成している。
また、歯科についても初期臨床研修修了後、大学院への進学及び後期研修に向けての専門領域に係る研修も可能となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	196.7人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高山忠輝	内科 外科	部長	31年	
権寧博	呼吸器内科	部長	28年	
中村英樹	リウマチ科	部長	29年	
八田善弘	血液内科 腫瘍内科	部長	38年	
阿部雅紀	腎臓・内分泌内科	部長	24年	
森山光彦	消化器・肝臓内科	部長	40年	
石原寿光	糖尿病・代謝内科	部長	33年	
中嶋秀人	脳神経内科	部長	33年	
奥村恭男	循環器内科	部長	22年	
丸岡秀一郎	心療内科	部長	25年	
鈴木正泰	精神科	部長	19年	
森岡一朗	小児科 新生児内科	部長	23年	
藤田英樹	皮膚科	科長	22年	
岡村行泰	消化器外科	部長	21年	
田中正史	心臓血管外科	部長	25年	
櫻井裕幸	呼吸器外科	部長	27年	
越永従道	小児外科	部長	38年	
多田敬一郎	乳腺・内分泌外科	部長	30年	
副島一孝	形成外科	部長	33年	
吉野篤緒	脳神経外科	部長	35年	
中西一義	整形外科	部長	27年	
吉田弘行	リハビリテーション科	部長代行	36年	
川名敬	産婦人科	部長	28年	
高橋悟	泌尿器科	部長	36年	
山上聡	眼科	部長	33年	

大島猛史	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	部長	35年	
岡田真広	放射線診断科 放射線治療科	部長	25年	
鈴木孝浩	麻酔科 疼痛緩和外科	部長	31年	
中山智祥	臨床検査科	部長	33年	
増田しのぶ	病理診断科	部長	36年	
木下浩作	救急科	部長	34年	
陳和夫	呼吸器内科 精神科	部長	40年	
北野尚孝	歯科口腔外科	部長	21年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

① 医療安全研修会（医療安全ワークショップ）

② セーフティマネジャー講習会（e-ラーニング研修）

・令和元年度活動報告

・SM事例検討会からの情報共有 転倒転落事例

・研修の期間・実施回数

① 令和2年12月4日（金） 年1回

② 令和2年6月11日（木）-同年7月31日（金）

・研修の参加人数

① 13名

② 267名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

個人情報保護と守秘義務について（e-ラーニング研修）

・研修の期間・実施回数

令和2年6月11日（木）～同年7月31日（水）・年1回実施

・研修の参加人数

2,789名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 高橋悟	
管理担当者氏名	事務長 野本浩嗣 庶務課長 田村剛史, 会計課長 菰澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長兼病歴課長 川原浩貴, 医療情報課長 藤井教智, 医薬品安全管理者 福島栄, 医療機器安全管理責任者 岡本一彦, 医学部庶務課長 長倉啓貴	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	病歴課, 医療情報課
		処方せん	病歴課, 医療情報課
		手術記録	病歴課, 医療情報課
		看護記録	病歴課, 医療情報課
		検査所見記録	病歴課, 医療情報課
		エックス線写真	病歴課, 医療情報課
		紹介状	病歴課, 医療情報課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課, 医療情報課
			日別, 年度別, 種類別に管理している。 診療録については, 「日本大学医学部附属板橋病院・病歴管理内規」において, 保管場所を「病歴課内, その他医学部内指定場所で保管する」とした上で, 「定められた保管場所以外に持ち出さないこと」としている。 また, 官公庁からの依頼については, 病院長の許可による。
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課, 庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課, 当該診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課, 当該診療科
		高度の医療の研修の実績	医学部庶務課
		閲覧実績	医事課, 病歴課, 庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 当該診療科
		入院患者数, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部, 庶務課
項に掲げる事項 規則第一条の十一第一	掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室, 庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室，庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部，医療安全管理室，庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学技士室，中央放射線部，庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室，庶務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室，庶務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課，庶務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴課，庶務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	執行部会，高難度新規医療技術担当部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の状況	執行部会，薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室，医事課，庶務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室，医事課，庶務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課
		管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
管理者が有する権限に関する状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 野本浩嗣	
閲覧担当者氏名	庶務課長 田村剛史, 会計課長 菫澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長兼病歴課長 川原浩貴, 医療情報課長 藤井教智, 医学部庶務課長 長倉啓貴	
閲覧の求めに応じる場所	会議室	
閲覧の手続の概要	病院長宛に依頼文書・照会文書を送付いただき、その諾否を執行部会で判断する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 2件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p>有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容： 日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し，常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として，安全管理体制の強化を図るため，平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し，現在まで以下の指針及び完全管理体制を確保するための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法に基づいた医療安全管理に関する基本方針 ・ 医療安全管理指針（基本理念及び安全管理指針）（平成12年3月制定，令和2年3月改定）</p> <p>② 安全管理組織運営 ・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，令和元年7月改定） ・ セーフティマネジャーに関する規則（平成16年1月制定，平成29年4月改定） ・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改定） ・ セーフティマネジャーによる事例検討会に関する規約（平成25年3月制定）</p> <p>③ 安全管理体制の確保のための委員会 ・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，令和2年3月改定） ・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改定） ・ 医療事故調査委員会要項（平成28年2月制定）</p> <p>④ 医療事故発生時の対応方法 ・ インシデント・アクシデント，不具合事象(合併症)報告運用規則（平成12年5月制定，令和元年8月改定） ・ インシデント・アクシデント，不具合事象(合併症)報告ルート（平成12月5月制定，令和元年8月改定） ・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成27年8月改定）</p> <p>⑤ 患者からの相談に応じる体制 ・ 患者相談窓口運用要綱（平成15年10月制定，平成25年8月改定） ・ 患者相談窓口フローチャート（平成15年10月制定，平成25年8月改定）</p> <p>⑥ 患者への適正な説明・内部通報窓口の設置 ・ インフォームドコンセントに関する内規（平成28年9月制定） ・ インフォームドコンセントマニュアル（平成28年9月制定，令和元年2月改定） ・ 内部通報者保護に関する内規（平成28年9月制定）</p>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容：副病院長（医療安全管理責任者）を委員長とする医療安全管理委員会を毎月1回定例で開催している。医療安全管理委員会は，医療安全管理者，看護部門，中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部），事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー等）により構成されている。本院における医療に係る安全管理の根幹を決定し，医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また，年間2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。 同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会を統括し，連携を図ると共に下部組織として各部門の主任以上をセーフティマネジャーに任命し，各部署における医療安全対策を推進している。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施 ① 令和2年6月 第1回医療安全講習会 「医療事故レポーティングシステム（インシデント・アクシデント報告）について」 他 ② 令和2年11月 第2回医療安全講習会 「医療法25条第3項による立入検査指導要綱について」 他 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。 <p>平成18年度からオンライン化を図り、平成26年度から電子カルテの導入によるシステムの最適化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットや研修会等で事例を収集・把握し情報を得ている。収集した情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容や事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、検証を要する事故事例については、セーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。 ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。 ④ 医療安全管理室員の連携（情報共有）を図るために、毎週1回医療安全管理室連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。 ⑤ 専従医療安全管理者等が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携を図っている。 ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧を確認したことを証明してもらうため、確認表を添付し、そこにサインさせ、医療安全管理室で確認表を収集・管理している。 ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、事例の分析、再発防止策を検討・実施している。 ⑧ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を把握し、医療安全管理室連絡会議や医療安全管理委員会で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例については、該当事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 基本理念，基本方針，専従者の配置，感染防止対策委員会の設置，鋭利な器材の取扱い，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容：（感染防止対策委員会，毎月1回） <ul style="list-style-type: none"> ・ 届出感染症および指定感染症（新型コロナウイルス感染症など）の発生状況 ・ 針刺し切創皮膚粘膜曝露件数の報告 ・ 抗MRSA薬，広域抗菌薬の使用状況 ・ 及び適正使用評価の報告 ・ 菌検出状況の報告 ・ 感染防止対策講習会の準備（企画）と開催，参加状況の把握 ・ 感染防止対策マニュアルの改訂 ・ 医療安全ポケットマニュアル第15版の作成，第16版の準備 ・ 標準予防策の手指衛生行動の評価：手指衛生ラウンド ・ 感染防止対策加算にかかわる活動の報告 ・ ワクチン接種について 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1) 2020年度前期（2020年6-7月） <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染防止対策の初めの一歩 ・ これからの新型コロナウイルス感染症対策 ・ 培養検体提出に関する基本事項 2) 2020年度後期（2020年11-12月） <ul style="list-style-type: none"> ・ 手指衛生について ・ 抗菌薬適正使用支援 ・ 抗菌薬と耐性菌 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症発症時の報告体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生時，細菌検査室から主治医へ，同時に感染予防対策室の専従感染管理者へ報告があり，専従感染管理者は現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。 ・ 感染症法による感染症の届出は電子カルテより様式を出力でき，速やかな報告書の提出を可能としている（疾患が追加されるたびに，内容も変更を行っている）。 2) ICT，感染予防対策室によるAST活動，院内ラウンド <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTとして週1回，病棟・外来・他部署の院内巡視を実施。 ・ 医師，看護師，薬剤師，検査技師による抗MRSA薬及び広域抗菌薬適正使用検討会を週2回実施し耐性菌感染症対策に努めた。 ・ 病室やステーション，汚物室などの環境や標準予防策，経路別感染予防の遵守状況などを毎週行なうラウンドで検証している。 3) 手指衛生の量的・質的向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年は年に2回，手指衛生質評価を病棟と外来で実施しているが，2020年度は新型コロナウイルス感染症対応のため，後期1回のみ実施した。新型コロナウイルス感染症の対応を行なっている部署や耐性菌が検出された部署（NICU，小児病棟）では，数か月間，定例のものとは別に実施し，改善したことを確認した。 ・ ICLN活動として，各部署の手指衛生行動の評価（手指消毒剤の使用量測定）を行っている。 ・ 手指消毒剤の払出量サーベイランスを実施し，質評価の結果とともに各部署へフィードバック 	

- クしている。
- ・ 2020年の病院全体におけるAHR払い出し量は33.5L/1000床・日であり、WHOが推奨する20L/1000床/日を超えることができた。また、病棟のみに絞っても22.2L/1000床・日であり、WHOが推奨する目標量を超えることができた。
- 4) 院内感染サーベイランス
- ・ カテーテル関連尿路感染症 (CAUTI)・中心静脈カテーテル関連血流感染症 (CLABSI)・人工呼吸器関連肺炎 (VAP) サーベイランスを全部署で実施。結果を感染防止対策委員会やICT, 看護部合同会議などで共有。フィードバックし看護ケアの質向上へと繋げている。
 - ・ 耐性菌サーベイランスを通年、インフルエンザ・感染性胃腸炎サーベイランスを季節限定的に実施。ラウンドや対策のための情報とし、感染対策実施状況の確認、評価に使用。耐性菌についてはMRSAとカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症を除き、アウトブレイクがないことを確認できた。
- 5) 職員研修
- ・ 感染防止対策講習会の内容の充実と参加率向上への取り組みに努めた。開催期間中に院外への異動や退職した者を除くと全職種で概ね全員が参加したことを確認した。
- 6) その他
- ・ 清掃業者・施設課の定期カンファレンスに専従感染管理者が参加し意見交換を行い、さらに清掃ラウンド(感染予防対策室・資材課・清掃マネジャー)を年3回(6, 10, 12月)実施し、環境整備の質向上に繋がった。
 - ・ 特に新型コロナウイルス感染症、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症を中心とした感染防止対策会議を2020年9月から毎週1回開催している。
 - ① 発生状況
 - ② 手指衛生状況の報告と啓発
 - ③ 感染防止対策の方針決定

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 医薬品の安全使用のための業務手順書における全面改訂について ○ 医薬品副作用被害救済制度と添付文書に検査を行うように記載がある医薬品とのかかわりについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (☑・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 薬剤管理委員会委員にて、各部門を定期的に巡視し手順書に沿った確認を行い必要であれば改善点を指摘し、その後改善されているかを確認している。薬剤部としても、定期的に医薬品管理関係をチェックし、報告書を作成し医薬品安全責任者から医療安全管理室へ報告している。薬剤管理委員及び医薬品安全管理責任者は薬剤関係のインシデントレポートを確認し、必要な場合手順書の改訂などを薬剤管理委員会で検討し、医療安全管理委員会にて承認する。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：該当なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付文書以外の医薬品に関する適応外使用の適否は薬剤部(医薬品情報室)が薬学的判断を行い医薬品安全管理責任者に報告し最終的に病院長に報告している。また当院で使用したことのない医薬品で承認または認証を受けていないものに関しては高難度新規医療技術等に対する安全管理体制に従い、未承認新規医薬品担当部門にて検討し、病院長に報告している。 ・ 電子カルテ内に手順書を収録するとともに、適宜、医薬品安全性情報、新規採用医薬品等の情報、重大な副作用等の改訂、「全身麻酔時に注意が必要な注射薬一覧」「ハイリスク薬一覧」なども電子カルテ内に収載し周知徹底している。 ・ 医薬品の安全使用を目的とするため、「ナルサス錠の服用方法について」のお知らせをし、本剤の過量投与により重篤な呼吸抑制を起こした事例が発生したことから、与薬準備に際しては前回服用時間を必ず確認し、1日1回を厳守することについて周知徹底した。 ・ 「添付文書警告欄に検査を行うように記載がある医薬品について」のお知らせをし、医薬品の使用にあたり添付文書で規定された検査が未実施であった場合には、副作用被害給付の対象外となること、および副作用を早期に発見し重篤化を回避するため、適切な検査を実施することについて周知徹底した 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の有用性・安全性に関する事項 ・ 医療機器の使用方法に関する事項 ・ 医療機器の保守点検に関する事項 ・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ・ 医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント ・ 医療機器の非常時の処置方法 ・ 新しい医療機器の導入時の研修 ・ インシデント発生時の再発予防に関する事項など ・ 研修の実施方法： <ul style="list-style-type: none"> ・ e-ラーニング ・ 集合教育 ・ 実習研修 <p>効果測定については、確認テストを行っている。e-ラーニングでの研修では、確認テストで100%正解しなければ受講修了とならない。確認テスト実施後、正誤とともに解説が表示される。集合教育や実習研修に関しては、研修終了後確認テストを行い、間違えた個所についてはその場で解説を行っている。未受講者については、再度の受講の要請を行う。また、資料配布などを行い、アンケートとともに確認テストを行い、終了後テストの解説を配布するなどとした。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：医療機器ごとに保守点検の計画・実施表を作成し、3か月毎に見直し、医療機器・放射線機器委員会にて承認を得ている。機器ごとの保守点検については、添付文書、取扱説明書等に記載してある、メーカー推奨の点検方法を採用し、点検している。また、メーカーが行う保守点検については、終了後、使用前点検を再度行い、正常作動を確認している。 <p>○医療機器</p> <p>定期点検；人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、血液浄化装置、輸液ポンプなどの一部の機器については、臨床工学技士が、マニュアルに沿って点検を行う。その他の補助循環装置や電気メス、麻酔器などについては、メーカーに依頼している。</p> <p>日常点検；始業点検・使用中・使用后・修理後の点検の実施、および記録を臨床工学技士が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で、始業点検を行っている。特に生命維持管理装置（人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置）の使用中心点検は、チェックリスト等を用い、機器の状態、患者の状況、指示通り治療が行われているかなどを、臨床工学技士が巡視し、チェックリストなどを用いて確認している</p> <p>○放射線機器</p> <p>定期点検；各機器のマニュアルに沿った期間・内容で行っている。 高エネルギー放射線発生装置：4回/年実施、メーカーに依頼 診療用放射線照射装置（RALS装置）：2回/年実施、メーカーに依頼 CTエックス線装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼 MRI装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼</p>	

日常点検；始業点検・使用中・使用後・修理後の点検の実施，および記録を診療放射線技師が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で，始業点検・終業点検を行っている。高エネルギー放射線発生装置であるライナック装置の始業点検については，簡易型線量計を用いて出力測定を行い，各エネルギーの出力誤差が許容範囲内であるかチェックを行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - 未承認機器について
各部署に常駐するスタッフが，医師と連携を取りながら治療を行っているため，未承認の医療機器などを使用する際には，チームメンバーであるスタッフへ情報提供が行われる。
院外から借用するような機器については，原則，資材課に許可を得ることになっており，院内の委員会へ情報が挙げられる。また，未承認等の医療機器の使用については，臨床研究センターへ相談し，そこで委員会を立ち上げて，検討することが院内の規則となっており，医療安全管理室から周知されている。
 - それ以外の医療機器について
 - ・ PMDAやメーカーから情報を得ている。
 - ・ 得た情報は，部内，また医療機器・放射線機器管理委員会にて報告し，必要な場合には医療安全管理委員会への報告を行っている。
 - ・ 医療機器の使用方法等に関する注意や情報伝達は，臨床工学技士・診療放射線技師より行っている。さらに重要度があがる場合や，インシデントが関係しているような，全員に確実な周知を行うべきものについては，医療安全管理室専従スタッフと相談し，医療安全管理室より「医療安全注意報」や「CEのお知らせ」として周知している。
 - ・ 情報の周知には，電子カルテ，文書の配布，研修会などを利用している。
 - ・ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し，情報の共有化を図っている。また，安全情報をファイルし，適宜閲覧可能としている。
 - ・ メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。
 - ・ 治療計画装置の安全使用を図るために，保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め常に最新のソフトを使用している。
 - 前年度実績
 - ・ 医療機器・放射線機器管理委員会にて，医療機器・放射線機器に関連するインシデントについて151件の事例報告を行い，原因検索や対応の検討を行った。
 - ・ フローサイン使用時の滴数設定を誤った事例について・記録保全時にモニタ履歴を削除した事例・エアロネブの装着位置間違い事例について，機器の安全使用に関してCEのお知らせとして周知した。
 - ・ 経腸栄養に関連する相互誤接続防止コネクタ導入に関するWGを立ち上げ，導入に向けて取り組んだ。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年4月1日付け副病院長（管理担当）を医療安全管理責任者として配置し，医療安全管理室長を兼務している。医療安全管理責任者は病院の医療安全管理全般を統括し，医療安全管理委員会の委員長を務めると共に，薬剤管理委員会（委員長：医薬品安全管理責任者）及び医療機器・放射線機器管理委員会（委員長：医療機器安全管理責任者）から各委員会で討議された内容についての報告を受け，適宜監督・指導を行い，適正な医療安全管理体制を構築している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（13名）・無 うち専従6名
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤師が月1回以上，医薬品に関する巡視を行い，薬剤管理委員会及び医薬品安全管理責任者に報告している。また薬剤管理委員会の委員が病院各部門をラウンドし，手順書に沿ったチェックを行い，改善が必要であれば指摘する。指摘した場合は，近日中に改善されているか再度確認業務を行う。</p> <p>○薬剤管理委員及び医薬品安全管理責任者は薬剤関係のインシデントレポートを確認し，未投薬等の原因を検証し必要な場合，手順書改訂など薬剤管理委員会を通して検討する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○添付文書以外の医薬品に関する適応外使用の適否は，薬剤部(医薬品情報室)が薬学的判断を行い医薬品安全管理責任者に報告し最終的に病院長に報告している。また当院で使用したことのない医薬品で承認または認証を受けていないものに関しては，未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」に従い，未承認新規医薬品担当部門にて検討し，病院長に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：脳神経外科，職種 医師) (所属：総合科，職種 医師)</p>	

(所属：呼吸器内科，職種 医師) (所属：医療安全管理室，職種 薬剤師) (所属：薬剤部，職種 薬剤師) (所属：臨床研究センター，職種 看護師) (所属：臨床研究センター，職種 薬剤師) (所属： ，職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者，標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認，及び指導の主な内容：IC 責任者が確認の結果，適切でない事例を認めた場合は，マニュアルに従い実施するよう指導を行うとともに，該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い，適宜，院内通知等により，適正な説明の実施と説明を実施した際の様子を適正に記載するよう，啓蒙に努めている。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認，及び指導の主な内容：診療録責任者が診療録等の記載内容が十分でない事例を認めた際は，診療録記載に関するマニュアルに基づき記載するよう必要な指導を行うとともに，該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い，適正な記載の実施について教育している。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従 (7) 名，専任 () 名，兼任 (10) 名 うち医師：専従 (1) 名，専任 () 名，兼任 (4) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名，専任 () 名，兼任 (1) 名 うち看護師：専従 (2) 名，専任 () 名，兼任 (2) 名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医療安全に係る関係部署への連絡調整 ② 医療事故等の原因究明の実施確認及び指導 ③ 医療事故発生時における，患者・家族への説明等の対応状況の確認及び指導 ④ 医療事故等に関する診療録・看護記録等の記載の確認及び指導 	

- ⑤ 医療安全研修会の運営，実施内容の記録
- ⑥ 全死亡患者報告受領及び医療安全に係る診療状況調査・検証と管理者への報告
- ⑦ 医療事故防止マニュアルの職員への周知及び評価
- ⑧ 患者相談窓口の相談情報の把握及び医療安全対策への活用
- ⑨ 医療安全管理委員会の資料・議事録の作成及び保存，その他医療安全管理委員会の庶務に関すること
- ⑩ ヒヤリ・ハット通信及び医療安全注意報の発行，職員への周知及び評価
- ⑪ その他医療安全対策の推進
- ⑫ 診療状況（コードブルー発生件数，RRS 発生件数，内視鏡治療合併症発生率，術後死亡（30日以内）件数，手術における血栓予防対策，疑義照会件数，CVC 合併症発生件数）のモニタリング

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には，専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件），及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

「高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し，改訂する。担当部門長は「高難度新規医療技術評価委員会」を開催し，その適否を評価するとともに，当該高難度新規医療技術が適正に提供されていることを，継続的に確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し、改訂する。担当部門長は「未承認新規医薬品評価委員会」、「未承認新規高度管理医療機器評価委員会」を開催し、その適否を評価するとともに、当該未承認医薬品、未承認高度管理医療機器が適正に提供されていることを、継続的に確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 862 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 251 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
院内で死亡した症例や死産症例の全症例について、現場担当者から死亡に至る状況を聴取し、死亡診断書の有無、部署、報告者、報告日時、患者病歴番号の報告を義務化し、医療安全管理者や担当医師によるカルテ記載の確認を行う。その結果を医療安全管理室連絡会議で報告の上、検証を行い、医療安全管理委員会で検証結果を報告の上、重大事例や早急に改善が必要となる事例においては、当該事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：東邦大学医療センター大森病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：東邦大学医療センター大森病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況 特になし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- ① 患者相談窓口 設置時間 毎日／月～金 8：30～17：00 土 8：30～正午
- ② 相談により患者や家族が不利益を受けないような適正な配慮
 - ・ 相談患者等には不利益が無いことを十分に説明し、面談室で相談に応じることで相談時のプライバシーを確保している。
 - ・ 当該患者の訴えを丁寧に聴取し解決策をプランニングする。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和2年6月11日-令和2年7月31日(e-ラーニング研修)

- ① 医療事故レポートシステム（インシデント・アクシデント報告）
- ② 2019年度インシデントレポート報告と現状からの注意喚起
- ③ 医薬品の安全使用のための業務手順書における全面改訂について
- ④ 新たな診療用放射線に係る安全管理体制について
- ⑤ 個人情報保護と守秘義務について

令和2年11月12日-令和2年12月31日（e-ラーニング研修）

- ① 医療法第25条第3項による立入検査指導事項について
- ② 医療事故調査制度について
- ③ 医薬品副作用被害救済制度と添付文書に検査を行うように記載がある医薬品とのかかわりについて
- ④ CT検査における患者移動時の注意点とMRI施行時のディスプレイ電極について
- ⑤ 酸素ボンベの残量計算と取り扱い確認事項について

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者（病院長）

開催日：令和2年12月10日（木）

研修名：2020年度特定機能病院管理者研修（継続研修）

○ 医療安全管理責任者（副病院長）

開催日：令和2年12月16日（水）

研修名：2020年度特定機能病院管理者研修（継続研修）

○ 医薬品安全管理責任者（薬剤部技術長）

開催日：令和2年12月24日（木）

研修名：2020年度特定機能病院管理者研修（初回研修）

○ 医療機器安全管理責任者（臨床工学技士室技術長補佐）

開催日：令和2年11月2日（月）

研修名：2020年度特定機能病院管理者研修（初回研修）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況，当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況，当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「一般病院2」の認定を受けている。

（認定期間：2017年10月13日～2022年10月12日）

なお，令和4年8月に同機構が実施する「一般病院3」による評価を受審する予定である。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

「一般病院2」認定証を院内に掲示しており，審査結果報告書は管理事務室内に備え置き，一般の供覧を可能としている。

・評価を踏まえ講じた措置

- ・診療記録の質的監査の実施
- ・救急カート定期点検の回数増加，配置場所の見直し
- ・診療情報管理士育成のための支援

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 日本国の医師免許を有していること ② 心身ともに健康であること ③ 豊富な診療経験を有していること ④ 医療の安全の確保のため、医療安全業務の経験や患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること ⑤ 適正な管理運営を図るため、組織管理経験やガバナンスに必要な資質及び指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
高山 忠利	副学長	○	委員会設置要項第4条の①の(1)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
塚本 俊久	人事部長		委員会設置要項第4条の①の(5)により人事取扱業務の統括者として選任	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
後藤田卓二	医学部長		委員会設置要項第4条の①の(2)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
岡安 英昭	医学部事務局長		委員会設置要項第4条の①の(3)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
野本 浩嗣	板橋病院事務長		委員会設置要項第4条の①の(4)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

渡邊俊太郎	翼法律事務所		委員会設置要項第4条の①の(6)により医療安全に精通した法律家として選任	有・無
横須賀 收	JCHO 船橋中央病院 院長		委員会設置要項第4条の①の(6)により医療管理及び医療安全に精通した医師として選任	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 厚生労働省令に定める特定機能病院としての管理及び運営に関する重要事項 ② その他病院の管理運営に関する事項 ③ 本院における運営の方針，中期計画，予算及び決算，その他の運営に関する重要事項のほか高度医療を実践するための審議を行う。 ・審議の概要の従業者への周知状況 諸会議，委員会を通じて周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
【執行部会】			
高橋 悟	○	医師	病院長
鈴木 孝浩		医師	副病院長
権 寧博		医師	副病院長
山上 聡		医師	副病院長
縣 美恵子		看護師	副病院長
野本 浩嗣		事務	事務長
【合同会議】			
高橋 悟	○	医師	病院長
高山 忠輝		医師	総合内科部長
権 寧博		医師	呼吸器内科部長
中村 英樹		医師	リウマチ・膠原病内科部長
八田 善弘		医師	血液・腫瘍内科部長
阿部 雅紀		医師	腎臓・高血圧・内分泌内科
森山 光彦		医師	消化器・肝臓内科部長
石原 寿光		医師	糖尿病・代謝内科部長

中嶋 秀人		医師	脳神経内科部長
奥村 恭男		医師	循環器内科部長
丸岡秀一郎		医師	心療内科部長
鈴木 正泰		医師	精神神経科部長
森岡 一朗		医師	小児科・新生児科部長
岡村 行泰		医師	消化器外科部長
田中 正史		医師	心臓血管外科部長
櫻井 裕幸		医師	呼吸器外科部長
越永 従道		医師	小児外科部長
多田敬一郎		医師	乳腺内分泌外科部長
副島 一孝		医師	形成外科部長
吉野 篤緒		医師	脳神経外科部長
中西 一義		医師	整形外科部長
吉田 行弘		医師	リハビリテーション 科部長代行
川名 敬		医師	産科・婦人科部長
山上 聡		医師	眼科部長
大島 猛史		医師	耳鼻咽喉・頭頸部外科 部長
岡田 真広		医師	放射線診断科, 放射線 治療科部長
鈴木 孝浩		医師	麻酔科部長
中山 智祥		医師	臨床検査医学科部長
増田しのぶ		医師	病理診断科部長
木下 浩作		医師	救命救急センター部 長
陳 和夫		医師	睡眠センター部長
北野 尚孝		歯科医師	歯科口腔外科部長
加藤 実		医師	手術部長
縣 美恵子		看護師	看護部長
大塚 進		薬剤師	薬剤部長
内ヶ崎西作		医師	医療安全管理室副室 長
加藤 公敏		医師	臨床研究センター長
野本 浩嗣		事務	事務長
田村 剛史		事務	庶務課長
川原 浩貴		事務	医事課長兼病歴課長
石橋 慶一		事務	資材課長
菫澤 雅幸		事務	会計課長
藤井 教智		事務	医療情報課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。
- 規程の主な内容
本学の教育・研究及び診療・管理に関する事項を管掌する。
- 管理者をサポートする体制（副院長，院長補佐，企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- 副病院長の4名は運営上重要分野である診療・医療連携，経営，医療安全・教育，多職種連携の各分野をサポートする。
- 病院長補佐の4名は喫緊の重要施策であるワクチン・働き方改革，病院機能評価受審，手術室運営，コロナ病棟・ERの各施策をサポートする。
- 事務長，看護部長，薬剤部長は事業計画の立案や計画について，各専門分野の見地から具体的施策の具申を行う。
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院幹部に医療管理・経営に精通した経営学修士（MBA），医療経営士3級（日本医療実践協会）取得者を配置している。それぞれの職種の所属団体である全国医学部長病院長会議，日本私立医科大学協会病院事務長会議総会，同東ブロック会，同法務委員会，日本看護協会医療安全・感染対策委員会に出席して研鑽を積んでいる。
また，行政，団体，民間による研修として，トップマネジメント研修，医師の働き方改革セミナー，医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム，医療法務セミナー等に出席して適正な病院経営に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容： 学校法人日本大学におけるガバナンス強化を目的に板橋病院における医療安全管理体制及び業務遂行に関する監査を目的として「日本大学医学部附属板橋病院医療安全監査委員会設置要項」に基づく医療安全監査委員会を設置する。当該委員会は板橋病院の医療安全管理，感染防止，医薬品安全管理，医療機器安全管理等に係る体制整備及び業務遂行状況を監査し，監査結果は開設者に報告及びホームページを通じて外部に公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・公表の方法： 日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上條 由美	昭和大学江東豊洲病院副院長・医師	○	大学病院副院長として医療安全に関する豊富な実務経験と識見を持ち合わせているため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
各務 武希	光和総合法律事務所・弁護士		法曹界での豊富な実績を有しており，法律に関する専門知識とコンプライアンス分野の識見を持ち合わせているため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
柴田 誠治	板橋区名士・医療を受ける者代表		医療を受ける者としての客観性と社会性を持ち	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

			合わせているため		
庄司 義男	元関東信越厚生局医療課長		豊富な業務経験を踏まえた医療に係る安全管理に関する識見を持ち合わせているため	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
西成田 進	元本病院医療安全管理室兼任医師		総合病院病院長の経験と本病院医療安全管理室兼任医師の業務経験を持ち合わせているため	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
大学開設者は監査委員若干名を任命し、監査委員は開設者の命に従い、監査を行う。監査委員は全部署に対し、関係書類・帳簿の提出、事情の説明、その他必要事項の報告等を求め、病院の管理運営の制度（財政、医療安全、感染対策、情報管理等を含む）及び業務の遂行状況が法令、大学諸規程に従い、適正に行われているかを検討・評価し、その結果に基づく情報の提供及び改善・助言・提案等を行う。監査委員は監査終了後、監査報告書を作成し、その結果を開設者に報告する。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ・無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- ・ 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人日本大学に病院の健全な経営を図るため、日本大学病院経営会議を設置し、病院経営に関する重要な事項や病院の組織及び人事に関する重要な事項、その他病院に関する重要な事項を審議し、病院の業務を監督する。 ・ 会議体の実施状況（年 10 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 5 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：日本大学病院経営会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
田中 英壽	理事長	○	有・無
加藤 直人	学長		有・無
高山 忠利	副学長		有・無
越智 光昭	常務理事		有・無
井出 達雄	常務理事		有・無
大里 裕行	常務理事， 総務部長		有・無
友近 英展	財務部長		有・無
塚本 俊久	人事部長		有・無
秋山 利明	管財部長		有・無
後藤田卓志	医学部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
岡安 英昭	医学部事務局長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
飯沼 利光	歯学部長		有・無
小方 頼昌	松戸歯学部部長		有・無
天野 康雄	日本大学病院病院長		有・無
高橋 錦吾	日本大学病院事務長		有・無
高橋 悟	板橋病院病院長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
野本 浩嗣	板橋病院事務長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲, 情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 電子カルテ, 講習会, 医療安全ポケットマニュアル, リーフレット, ホームページ等で周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法，内容等の概要</p> <p>医療連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関へ当病院の取り組みや各診療科における最新医療情報・特徴・特色・診療実績等を掲載したメールで情報発信を行っている。</p> <p>なお，ホームページにおいても情報発信を行っている。</p> <p>また，連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関向けの連携セミナーや意見交換会，地域住民向けのセミナーを定期的に開催して，当病院からの情報発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来・入院問わず，疾患に応じて主科から他科へのコンサルテーションを行い，兼科によって複数の診療科が連携して治療対応に当たる体制を構築している。</p> <p>また，疾患によっては複数診療科でのカンファレンス等により，患者にとって最適な治療方針を検討している。</p>	

(様式第 8-3)

本病経公発第 5 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人 日本大学
開設者名 理事長 田中英

日本大学医学部附属板橋病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|---|
| 1 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価 |
| 2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価 |
| 3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

令和 4 年 8 月に受審予定となっている。